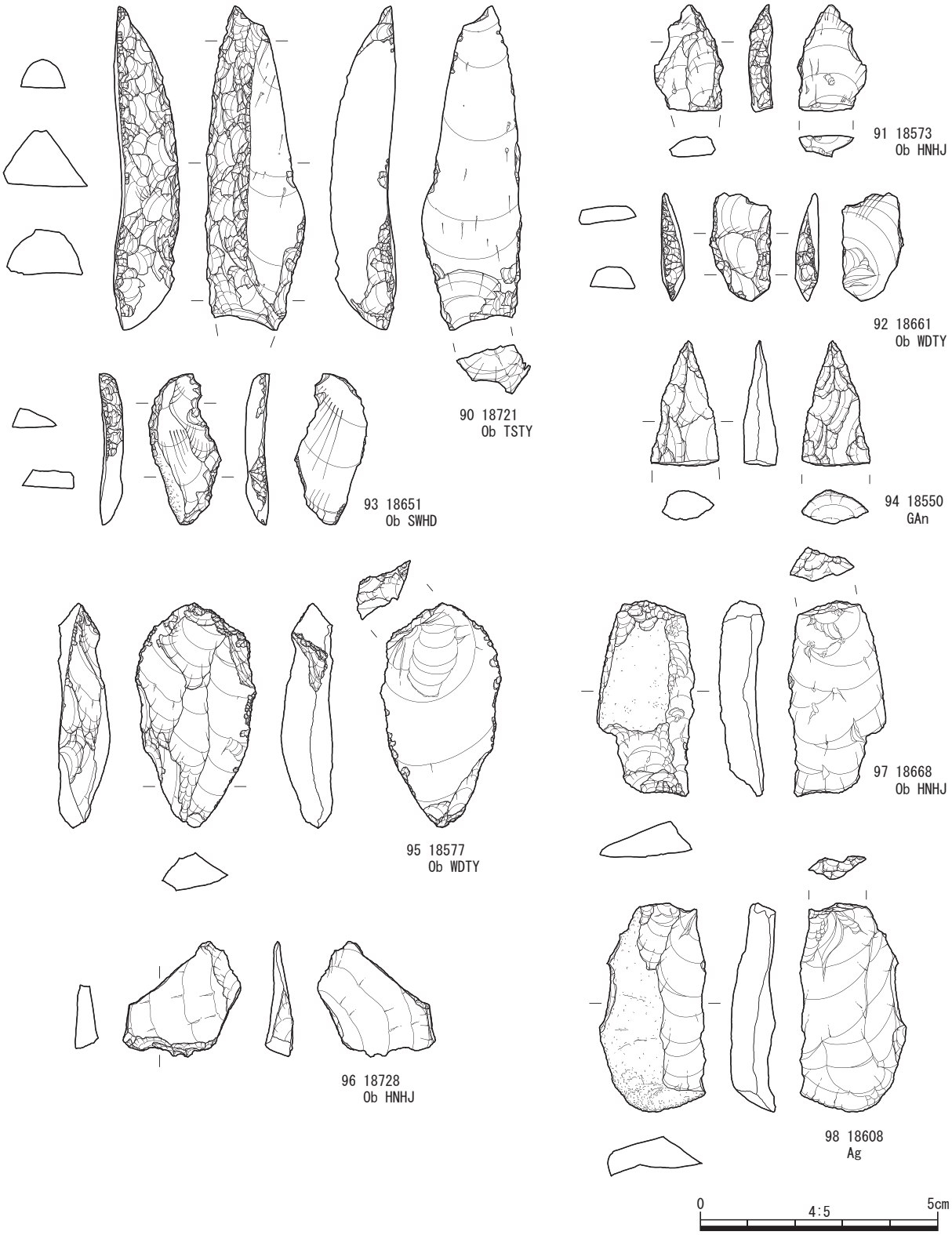
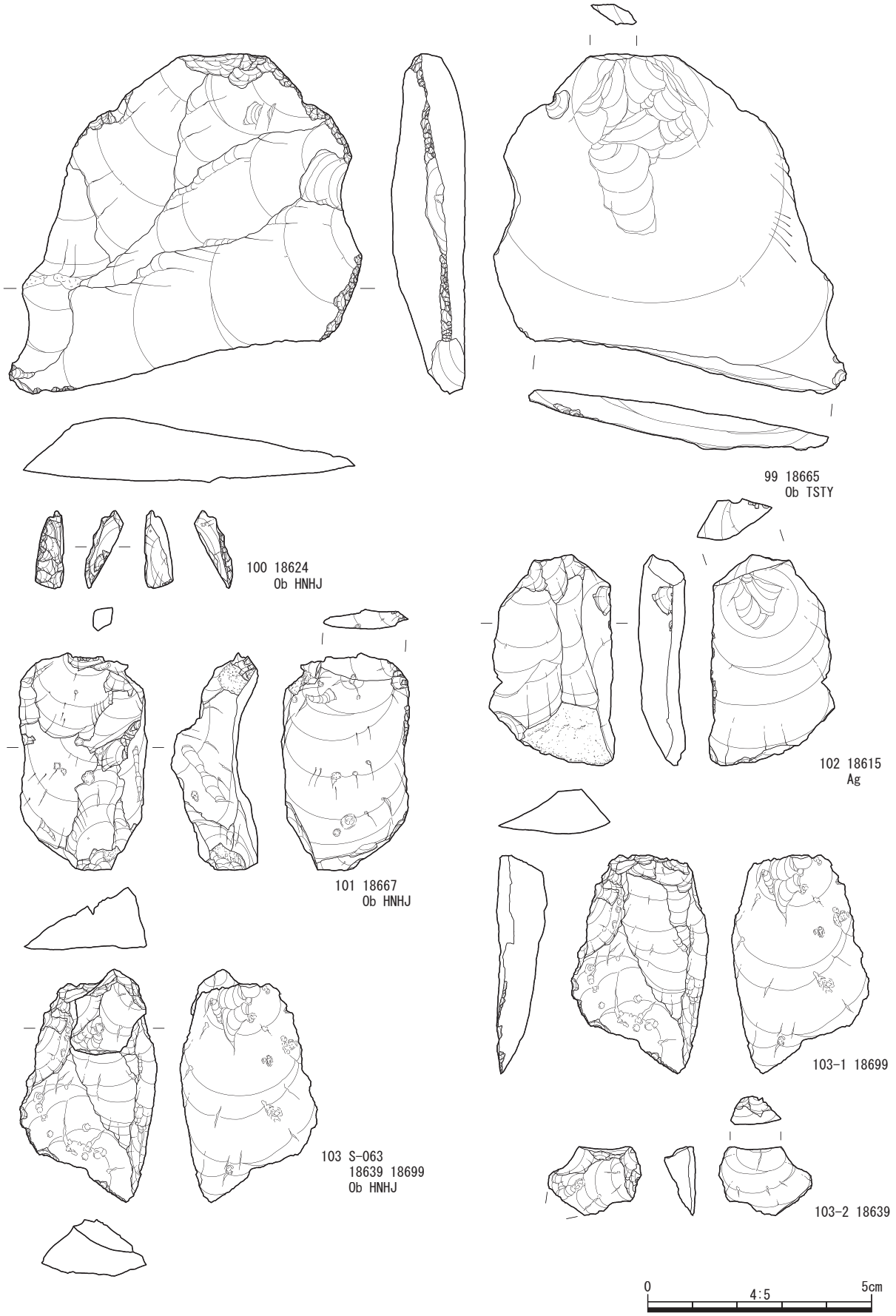


第 56 図　第Ⅲ文化層　18 号石器ブロック１
ナイフ形石器・ 尖頭器・グレイバー・スクレイパー・石刃



第 57 図　第Ⅲ文化層　18 号石器ブロック２
二次加工のある剥片・使用痕のある剥片・剥片

二次加工を施している。基部を欠損する。左側縁の二次加工は表裏両面から対向した剥離を施している。黒曜石（蓼科冷山群）製である。91は小型の縦長の剥片を素材として打点側を基部に用い、右側縁に二次加工を加える。基部を欠損する。黒曜石（箱根畑宿群）製である。92は横長の剥片を素材として両側縁に二次加工を加える。刃部は上方に形成されるいわゆる切出し状を呈する。黒曜石（和田鷹山群）製である。93はやや小型の縦長の剥片を素材として、二次加工により左側縁上半を弧状に調整し剥片打点部を除去し、右側縁下半にも二次加工を加えている。右側縁上半に形成された刃部は使用によるとみられる剥離が認められ、一部抉り状を呈している。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

尖頭器

94は両面加工の尖頭器である。表裏面にやや大きな剥離調整を加え整形している。下半部を折損する。ガラス質黒色安山岩製である。

グレイバー

95は縦長剥片を素材として、打点部付近に二次加工を加え彫刀面を形成している。なお、両側縁にも使用痕とみられる微細な剥離が認められる。黒曜石（和田鷹山群）製である。

スクレイパー

96は小型幅広の剥片を素材として、下端部に二次加工を加え刃部としている。黒曜石（箱根畑宿群）製である。

石刃

97・98は自然面付近の剥片剥離で得られた石刃である。97は打面付近に剥片剥離に際しての打面調整が念入りに行われている。黒曜石（箱根畑宿群）製である。98は同一方向から連続剥離して得られた石刃である。瑪瑙製である。

二次加工のある剥片

99は90度の打面転移により剥片剥離を行った特大の剥片を用い、右側縁に二次加工を加える。素材剥片下半を欠損している。黒曜石（蓼科冷山群）製である。

100は細長く折損した小型の剥片の左側縁に二次加工が認められる。打面付近は潰れを伴っている。黒曜石（箱根畑宿群）製である。103-1は縦長剥片の下端部に微細な二次加工を加える。小型幅広の剥片103-2が接合している。黒曜石（箱根畑宿群）製である。

使用痕のある剥片

101は縦長剥片の左側縁に使用痕とみられる微細な剥離が認められる。黒曜石(箱根畑宿群)製である。102は自然面に近い部分で180度の打面転移を行いながら剥片剥離を行い得られた縦長剥片を用い、両側縁に使用痕とみられる微細な剥離が認められる。瑪瑙製である。

19号石器ブロック（SBL19）

尾根先端部において長径8.96m、短径8.72mの範囲に石器113点が集中して出土しており石器ブロックと認定した。検出層位は休場層である。

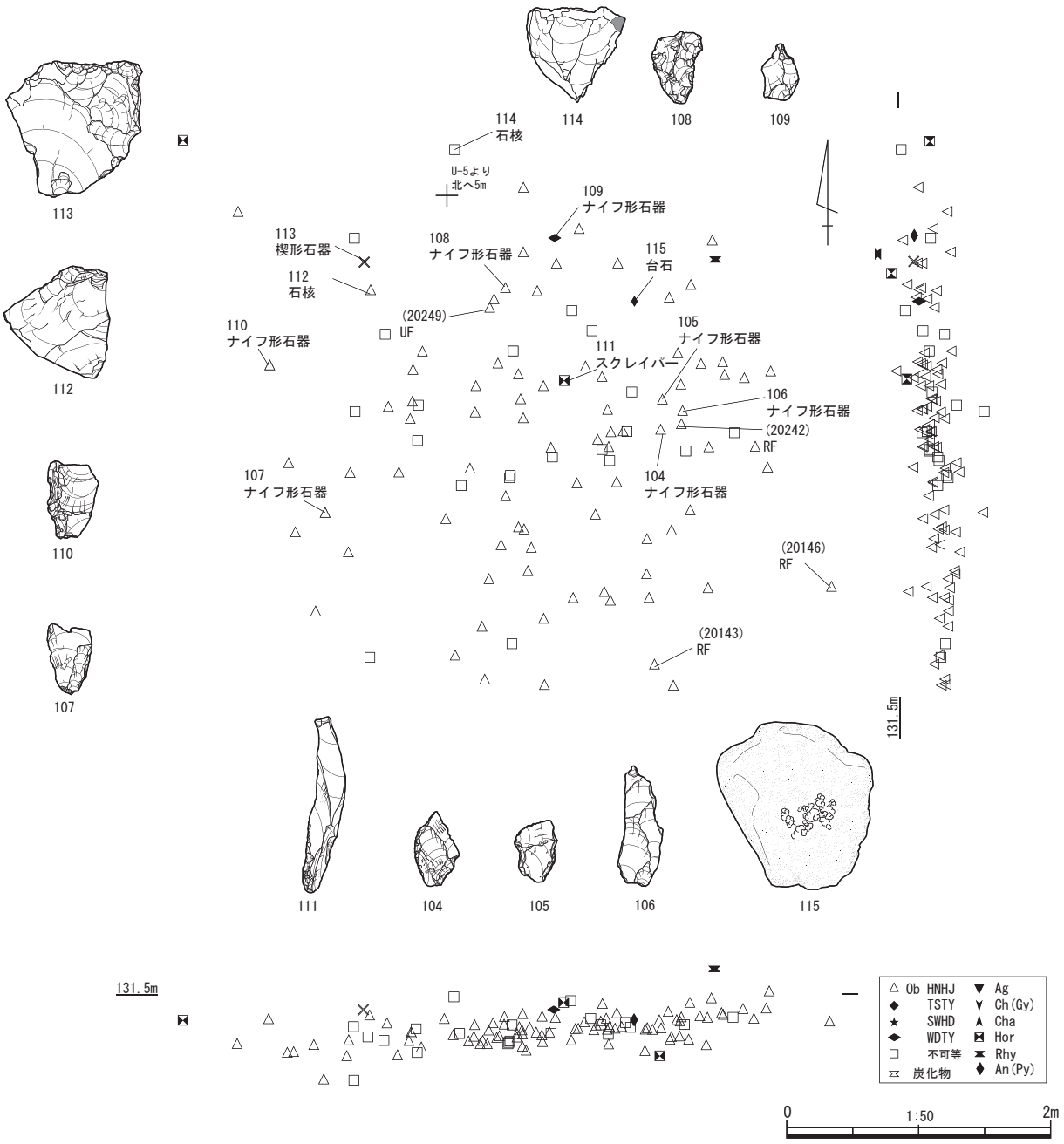
石器組成は、ナイフ形石器７点、スクレイパー１点、楔形石器１点、二次加工のある剥片３点、使用痕のある剥片１点、剥片・砕片97点、石核２点、台石１点の合計113点で構成される。石材組成は黒曜石製109点（箱根畑宿群87点、和田鷹山群１点、推定不可17点、未分析４点）、流紋岩製１点、ホルンフェルス製２点、輝石安山岩製１点であり、黒曜石中でも箱根畑宿群を主体とした石器群である。

出土遺物（第59・60図）

ナイフ形石器

104は小型の縦長剥片を素材とし、これを斜位に用い、打点側を基部に用い、右側縁下半及び左側縁上半に二次加工を行い整形している。黒曜石（箱根畑宿群）製である。105は小型の幅広剥片を素材と

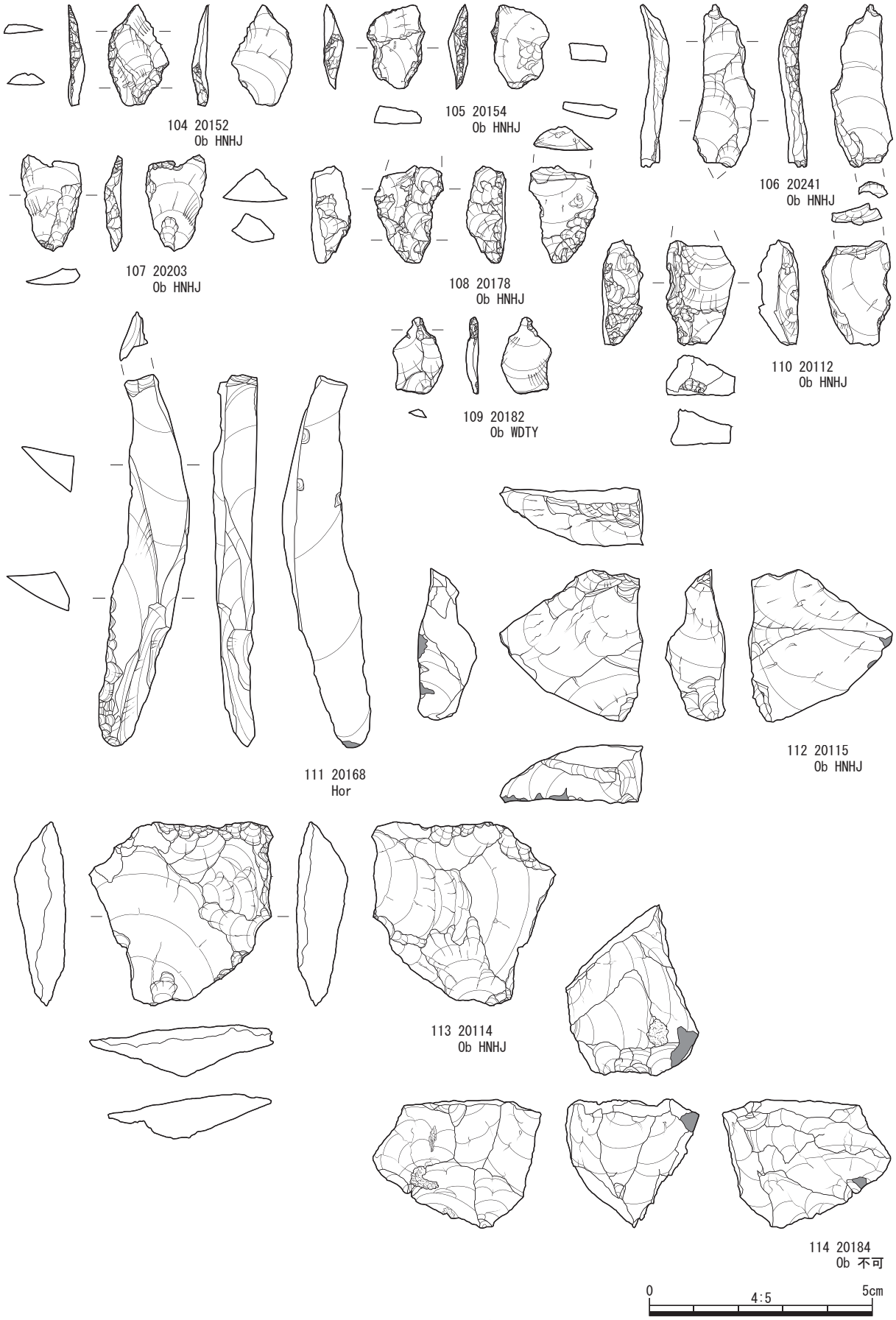
19号石器ブロック(SBL19)



第58図　第Ⅲ文化層　19号石器ブロック

して、打点部を側面に用い、両側縁に二次加工を行い整形している。刃部は上端で斜位に形成され切出し状を呈する。黒曜石（箱根畑宿群）製である。107は小型の縦長の剥片を素材として、打点側を基部に用い、右側縁に二次加工を行い整形している。左側縁に刃部が形成される。黒曜石（箱根畑宿群）製である。106はやや小型の縦長剥片を素材として、打点側を基部に用い、右側縁及び左側縁下端に二次加工を行い整形している。左側面の刃部は折損しているが、二次加工の状況からナイフ形石器と判断した。黒曜石（箱根畑宿群）製である。

108は断面三角形を呈するやや厚みがある小型の剥片を素材として、打点側を先端部に用い、右側縁及び左側縁裏面に二次加工を行い整形している。刃部は折損するが、主要剥離面の観察から折損部は素材剥片の打点に近い位置であることから、切出し状ないし左側縁上端に短い刃部が形成されたものと推



第 59 図　第Ⅲ文化層　19 号石器ブロック 1
ナイフ形石器・スクレイパー・楔形石器・石核

測される。黒曜石（箱根畑宿群）製である。109は薄手小型の剥片を素材とし、右側縁上端に二次加工が認められる。平面形状、左側縁の鋭い刃部からナイフ形石器と判断したが、左側縁中位にも刃部になりうる鋭い箇所が認められる。黒曜石（和田鷹山群）製である。110は横長幅広剥片の打点部を側面に用い、左側縁及び下端部に二次加工を行い整形している。刃部は折損する。黒曜石（箱根畑宿群）製である。

スクレイパー

111は縦長剥片を素材として左側縁下半に二次加工を行い刃部としている。ホルンフェルス製である。

楔形石器

113は上下端に両極剥離によって生じたと推測される対向した剥離が認められる。器壁は風化が著しく白化している。黒曜石（箱根畑宿群）製である。

二次加工のある剥片

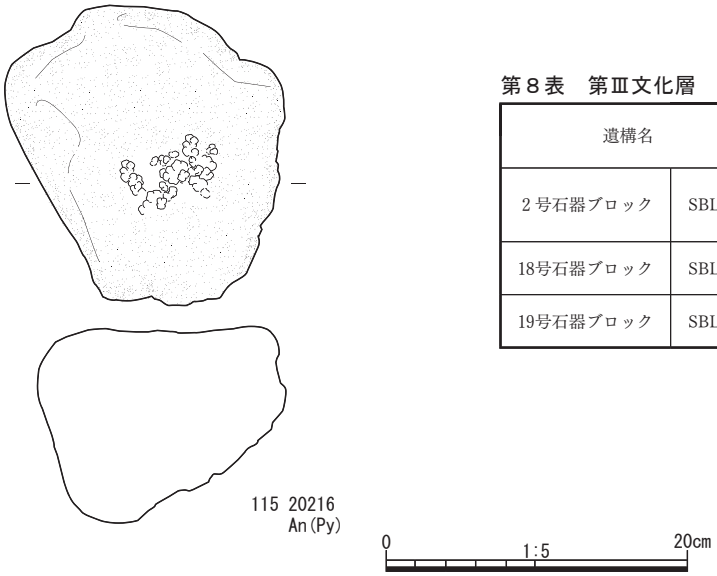
112はやや厚手の剥片の上端に二次加工を加えている。黒曜石（箱根畑宿群）製である。

石核

114は打面転移を繰り返し小型化が進んだ石核である。小型幅広の剥片を主体に剥離を行っている。器壁は風化が著しく白化している。黒曜石（分析不可）製である。

台石

115は厚手の大型の円礫の平坦面の中央付近に敲打痕が認められる。輝石安山岩製である。



第60図　第Ⅲ文化層　19号石器ブロック２　台石

第８表　第Ⅲ文化層　石器ブロック一覧

遺構名		検出面	グリッド	規模（m）	
				長径	短径
２号石器ブロック	SBL02	FB・YL YLU・YLM YLL・BB0	AM-28 AN-28	9.20	5.84
18号石器ブロック	SBL18	YLU・YLM YLL	V-5・6 U-6	13.20	8.60
19号石器ブロック	SBL19	YL･YLU YLM･YLL	U-6・7 T-6	8.96	8.72

３　礫群（第61図～第63図）

６号礫群（RG06）

谷底部において長軸3.00m、短軸2.12mの範囲に礫18点がやや散漫な分布状態で検出された。礫の接合が２個体認められる。台石１点を含むが赤化は認められない。12号礫群と近接している。検出層位は休場層中位である。

12号礫群（RG12）

谷底部において長軸4.48m、短軸2.16mの範囲に礫29点が散漫な分布状態で検出された。礫の接合が１個体認められる。敲石１点、台石１点を含むが赤化は認められない。６号礫群と近接している。検出層位は休場層中位である。117は断面逆三角形を呈するやや厚みがある大型の礫を用い、平坦な表面中

第９表　第Ⅲ文化層　石器ブロック組成表

２号石器ブロック

器種/石材別

		器種									合計
		ナイフ形石器	スクレイパー	グレイバー	楔形石器	石刃	RF	石核稜付剥片	剥片・砕片	石核	
石材	Ob HNHJ	1	1			1	1	1	151	1	157
	Ob SWHD		1		1		1		15		18
	Ob TSTY								24		24
	Ob WDTY	1							1		2
	Ob 推定不可	2							33		35
	Ob 未分析								89		89
	Ag								8		8
	Cha			2					1	1	4
	Ch(Gy)								1		1
	Hor	1							1		2
合計		5	2	2	1	1	2	1	324	2	340

炭化物：１点

石材/層位別

		石材										合計
		Ob						Ag	Cha	Ch（Gy）	Hor	
		HNHJ	SWHD	TSTY	WDTY	推定不可	未分析					
層位	BB0		1									1
	YLL	3	1	1								5
	YLM	13	1				2					16
	YLU	38	4	2		13	27	2	2		1	89
	YL	2									1	3
	YLS	101	11	21	2	22	60	6	1	1		225
	FB								1			1
合計		157	18	24	2	35	89	8	4	1	2	340

器種/層位別

		器種									合計
		ナイフ形石器	スクレイパー	グレイバー	楔形石器	石刃	RF	石核稜付剥片	剥片・砕片	石核	
層位	BB0								1		1
	YLL								5		5
	YLM							1	15		16
	YLU	3	2	1					82	1	89
	YL								3		3
	YLS	2			1	1	2		218	1	225
	FB			1							1
合計		5	2	2	1	1	2	1	324	2	340

18号石器ブロック

器種/石材別

		器種									合計
		ナイフ形石器	尖頭器	スクレイパー	グレイバー	石刃	RF	UF	石核稜付剥片	剥片・砕片	
石材	Ob HNHJ	1		1		1	1	2	1	48	55
	Ob SWHD	1								1	2
	Ob TSTY	1					1			1	3
	Ob WDTY	1			1					2	4
	Ob 推定不可									4	4
	Ob 未分析									1	1
	GAn		1								1
	Ag					1		1			2
	Hor									1	1
合計		4	1	1	1	2	2	3	1	58	73

石材/層位別

		石材									合計
		Ob						GAn	Ag	Hor	
		HNHJ	SWHD	TSTY	WDTY	推定不可	未分析				
層位	YLL	11		2	1	1	1			1	17
	YLM	39	2	1	3	3			2		50
	YLU	5						1			6
合計		55	2	3	4	4	1	1	2	1	73

器種/層位別

		器種									合計
		ナイフ形石器	尖頭器	スクレイパー	グレイバー	石刃	RF	UF	石核稜付剥片	剥片・砕片	
層位	YLL	2		1		1	1	1		11	17
	YLM	2			1	1	1	2	1	42	50
	YLU		1							5	6
合計		4	1	1	1	2	2	3	1	58	73

19号石器ブロック

器種/石材別

		器種								合計
		ナイフ形石器	スクレイパー	楔形石器	RF	UF	剥片・砕片	石核	台石	
石材	Ob HNHJ	6		1	3	1	75	1		87
	Ob WDTY	1								1
	Ob 推定不可						16	1		17
	Ob 未分析						4			4
	An(Py)								1	1
	Rhy						1			1
	Hor		1				1			2
合計		7	1	1	3	1	97	2	1	113

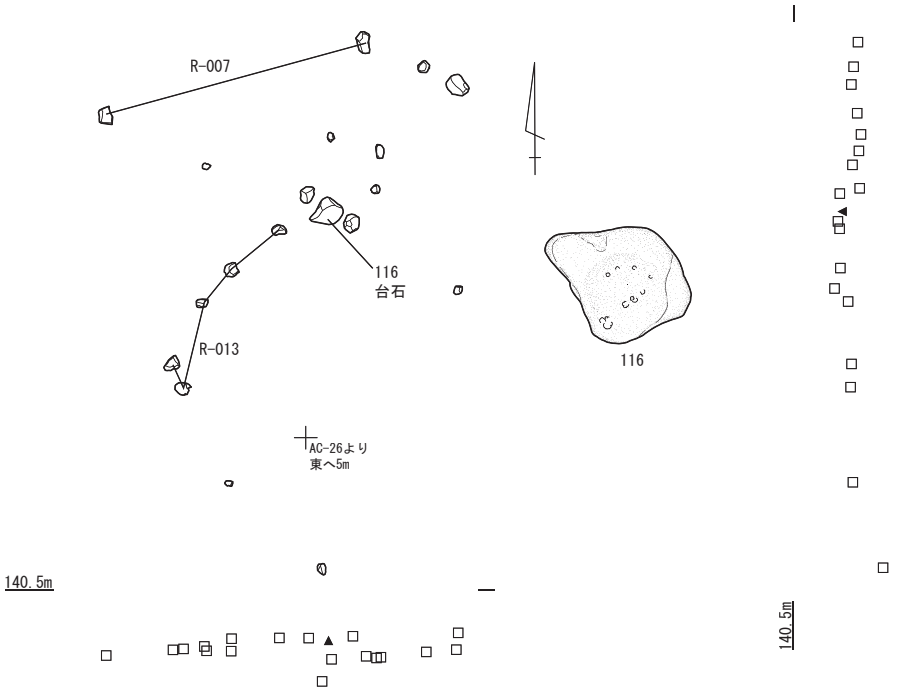
石材/層位別

		石材							
		Ob							
		HNHJ	WDTY	推定不可	未分析	An（Py）	Rhy	Hor	
層位	YLL	22		4					26
	YLM	1							1
	YLU			1					1
	YL	64	1	12	4	1	1	2	85
合計		87	1	17	4	1	1	2	113

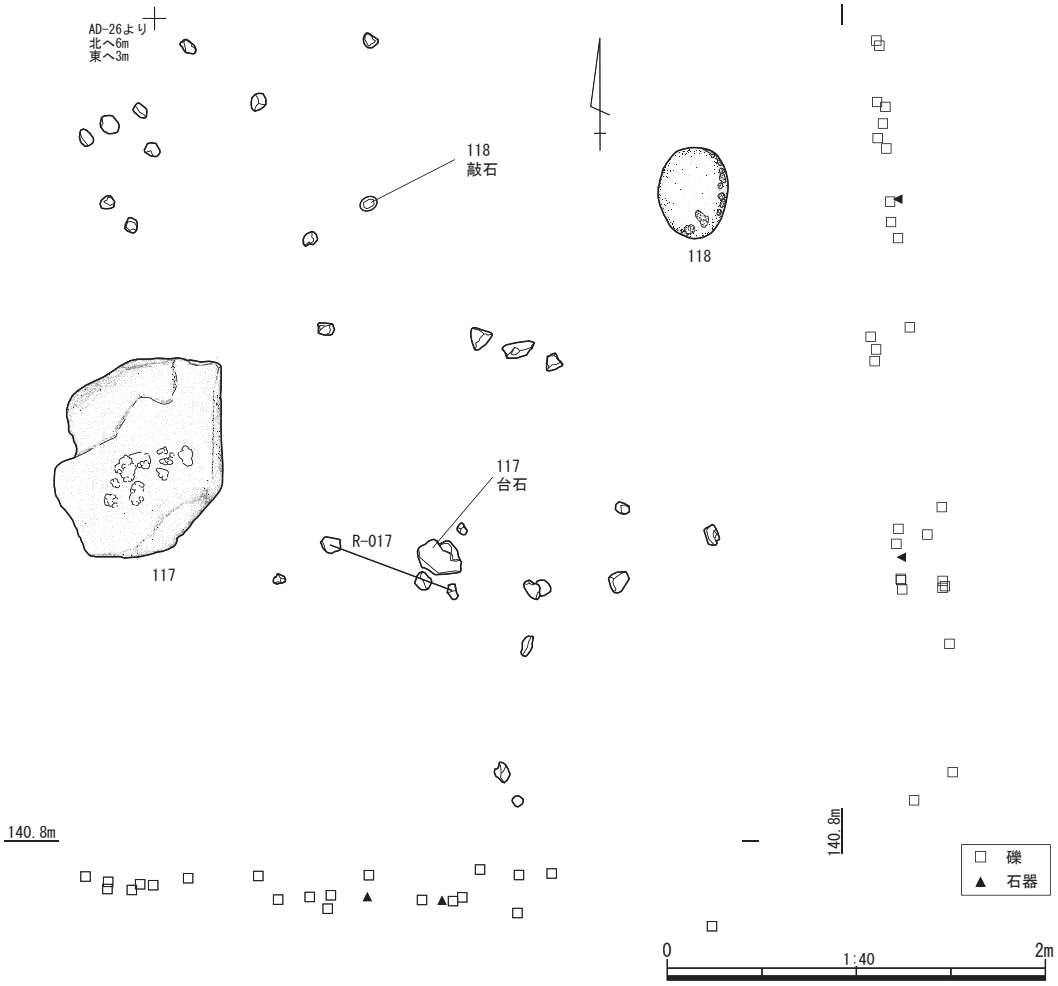
器種/層位別

		器種								合計
		ナイフ形石器	スクレイパー	楔形石器	RF	UF	剥片・砕片	石核	台石	
層位	YLL	2			1	1	22			26
	YLM						1			1
	YLU						1			1
	YL	5	1	1	2		73	2	1	85
合計		7	1	1	3	1	97	2	1	113

６号礫群(RG06)

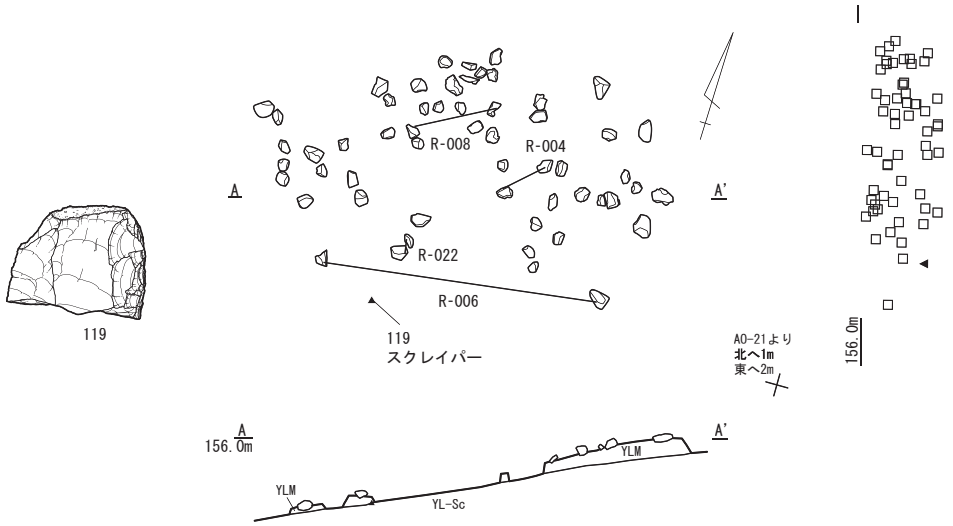


12号礫群(RG12)

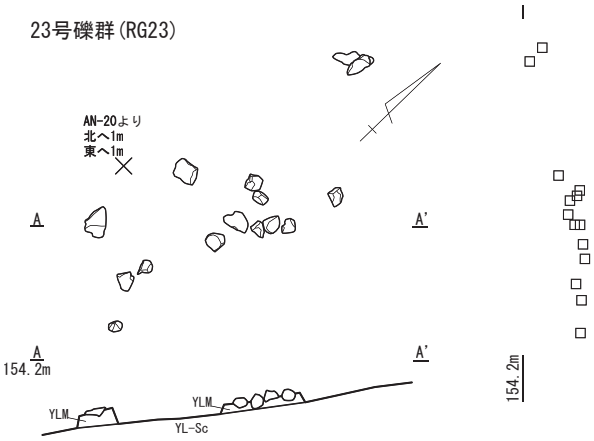


第61図　第Ⅲ文化層　礫群１

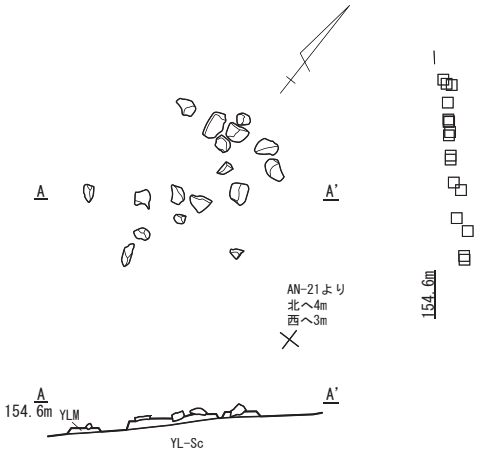
22号礫群(RG22)



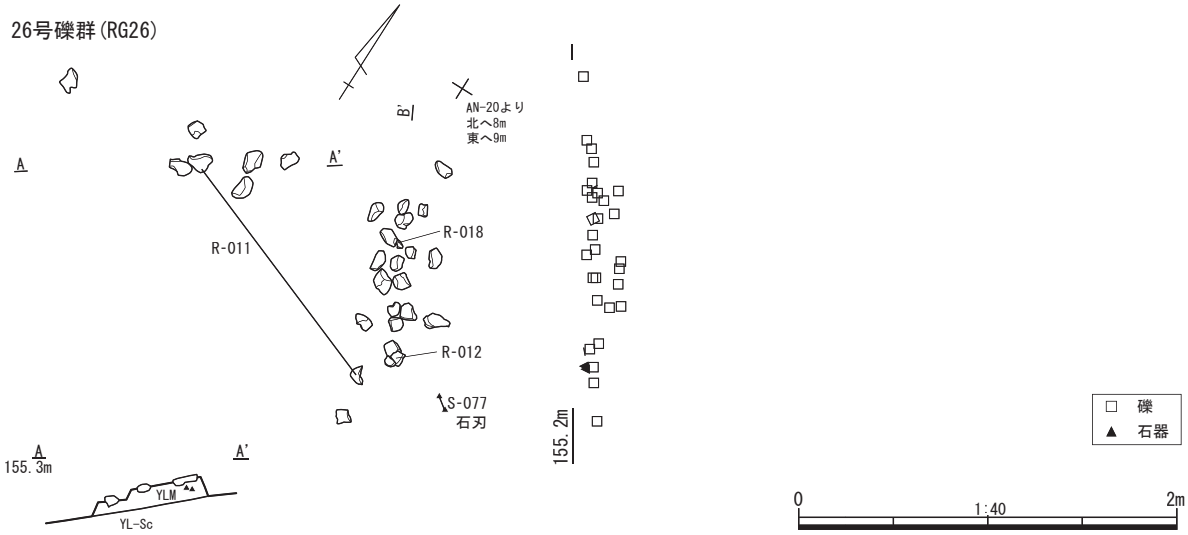
23号礫群(RG23)



24号礫群(RG24)

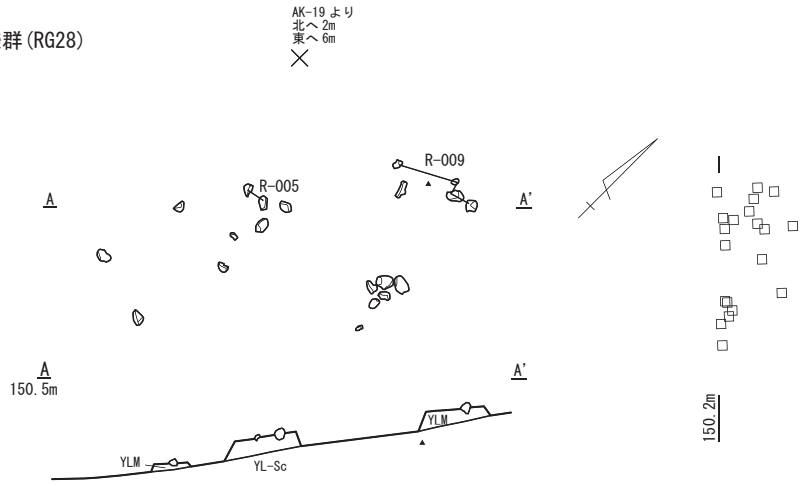


26号礫群(RG26)

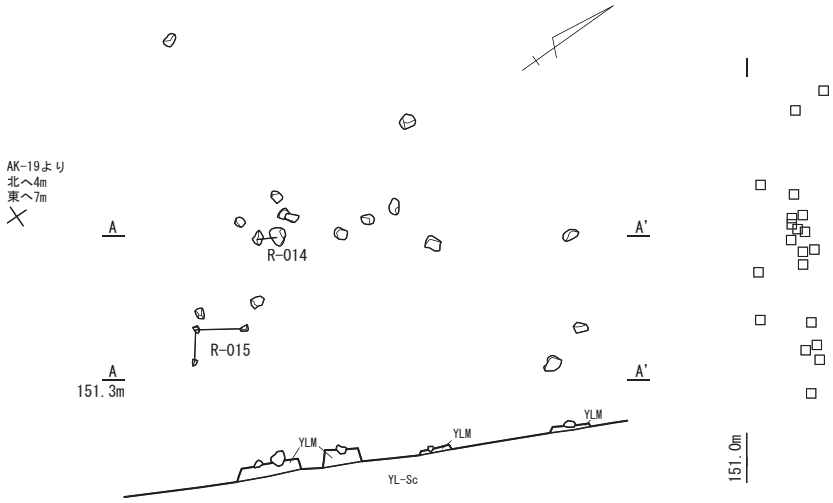


第62図　第Ⅲ文化層　礫群２

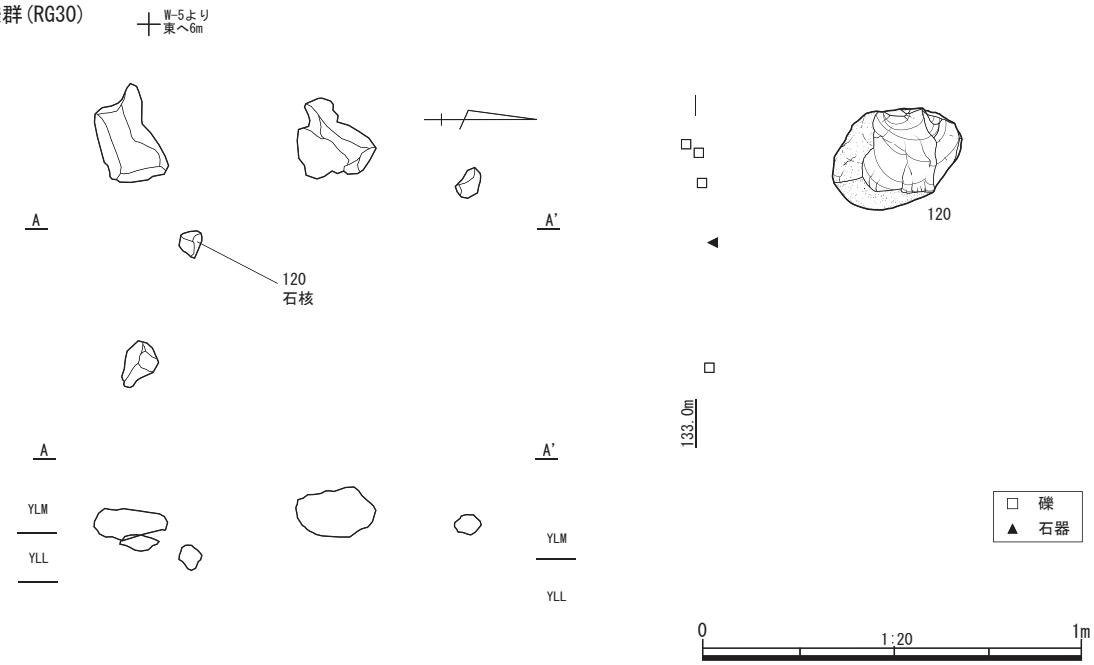
28号礫群(RG28)



29号礫群(RG29)



30号礫群(RG30)



第63図　第Ⅲ文化層　礫群３

央付近に敲打痕が認められる。輝石安山岩製である。被熱痕は認められない。

22号礫群（RG22）

谷底部において長軸2.28m、短軸1.44mの範囲に礫57点がやや密集した分布状態で検出された。礫の接合が４個体認められる。スクレイパー１点を含むが赤化は認められない。18号石器ブロック、26・24号礫群と近接している。検出層位は休場層中位である。

23号礫群（RG23）

谷底部において長軸2.20m、短軸0.88mの範囲に礫14点がやや密集した分布状態で検出された。18号石器ブロック、24・26・22号礫群と近接している。検出層位は休場層中位である。

24号礫群（RG24）

谷底部において長軸1.20m、短軸1.00mの範囲に礫17点がやや密集した分布状態で検出された。18号石器ブロック、23・26・22号礫群と近接している。検出層位は休場層中位である。

26号礫群（RG26）

谷底部において長軸2.60m、短軸1.40mの範囲に礫30点がやや密集した分布状態で検出された。礫の接合が３個体認められる。近接して接合関係にある石刃１点を含むが赤化は認められない。18号石器ブロック、22・24・23号礫群と近接している。検出層位は休場層中位である。

28号礫群（RG28）

谷底部において長軸2.04m、短軸0.92mの範囲に礫20点がやや散漫な分布状態で検出された。礫の接合が２個体認められる。29号礫群と近接している。検出層位は休場層中位である。

29号礫群（RG29）

谷底部において長軸2.16m、短軸1.40mの範囲に礫20点がやや散漫な分布状態で検出された。礫の接合が２個体認められる。28号礫群と近接している。検出層位は休場層中位である。

30号礫群（RG30）

尾根先端部において長軸1.10m、短軸0.80mの範囲に礫４点がやや散漫な分布状態で検出された。石核１点を含むが赤化は認められない。検出層位は休場層中位である。

出土遺物（第64図）

台石・敲石

116はやや歪んだ方形を呈する台石である。表面中央から下部にかけて数カ所の敲打痕が認められる。角閃石安山岩製である。６号礫群から出土している。117は断面逆三角形を呈する台石である。やや厚みがある大型の礫を用い、平坦な表面中央付近に敲打痕が認められる。輝石安山岩製である。118はやや厚みのある素材を使用した敲石である。右側縁から下部にかけて敲打痕が多く認められる。多孔質安山岩製で２点とも12号礫群から出土し、被熱は認められない。

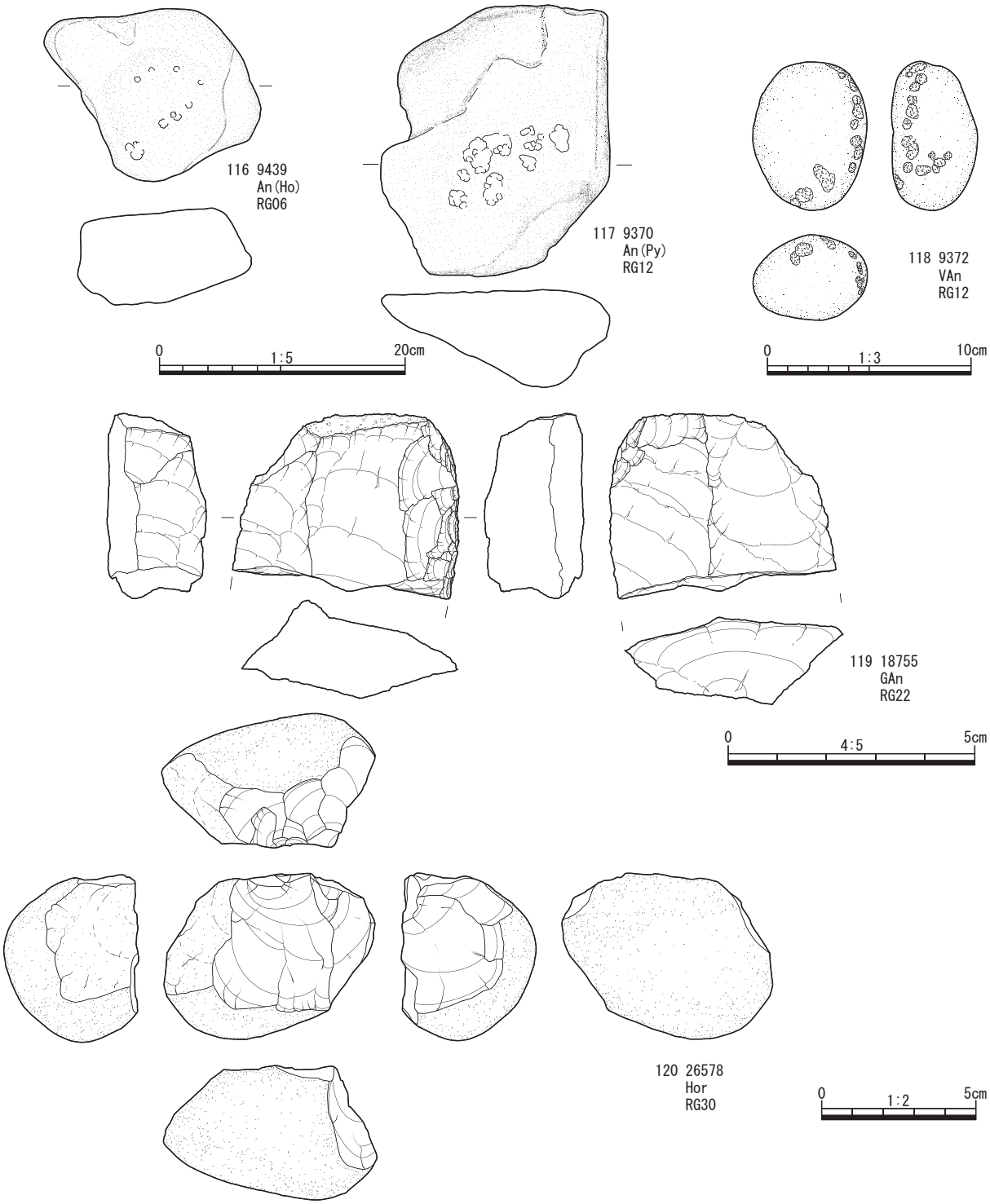
スクレイパー・石核

119は厚手の大型の剥片を素材としたスクレイパーである。右側縁に二次加工を施し、刃部としている。下半部を欠損する。ガラス質黒色安山岩製である。22号礫群から出土している。120は不定形な円礫を素材とした単設打面石核である。上面に打面を作出して剥片剥離している。作業面以外に自然面が残る。30号礫群から出土している。

４　遺構外出土の遺物

ナイフ形石器（第71～78図）

ナイフ形石器は素材剥片の形状や加工方法等から６類に分類しＡ類についてはさらに６種に細分を行った上で報告する。ただし、各分類間の中間的なものも存在し、厳密な分類が困難なものも認められる。



第64図　第Ⅲ文化層　礫群　出土遺物

第10表　第Ⅲ文化層　礫群一覧

遺構名		検出面	グリッド	規模（m）	
				長軸	短軸
6 号礫群	RG06	YLM	AC-26	3.00	2.12
12号礫群	RG12	YLM～YLS	AD-26	4.48	2.16
22号礫群	RG22	YLM	AO-20・21	2.28	1.44
23号礫群	RG23	YLM	AN-20	2.20	0.88
24号礫群	RG24	YLM	AN-20	1.20	1.00
26号礫群	RG26	YLM	AN-20	2.60	1.40
28号礫群	RG28	YLM	AK-19	2.04	0.92
29号礫群	RG29	YLM	AK-19	2.16	1.40
30号礫群	RG30	YLM	V・W-5	1.10	0.80

第11表　第Ⅲ文化層　礫群組成表

石材/点数

	石材								合計
	An(Py)	An(Ho)	Ba	Ba(Scr)	VAn	VBn	Do	LT	
6号礫群	17		1						18
12号礫群	29								29
22号礫群	5		12			32		8	57
23号礫群	7	1	4		1	1			14
24号礫群	4	1	6	1		5			17
26号礫群	6		1		1	17	5		30
28号礫群	2					18			20
29号礫群			9			11			20
30号礫群	3					1			4
合計	73	2	33	1	2	85	5	8	209

石材/重量

	石材								合計(g)
	An(Py)	An(Ho)	Ba	Ba(Scr)	VAn	VBa	Do	LT	
6号礫群	4,007		18						4,025
12号礫群	10,980								10,980
22号礫群	1,302		3,255			9,226		1,499	15,282
23号礫群	390	4,166	1,868		900	255			7,579
24号礫群	1,928	220	2,016	373		2,159			6,696
26号礫群	1,465		216		595	7,786	1,861		11,923
28号礫群	215					2,985			3,200
29号礫群			1,749			2,223			3,972
30号礫群	13,300					400			13,700
合計	33,587	4,386	9,122	373	1,495	25,034	1,861	1,499	77,357

6号礫群
石材/層位別

		石材			合計	赤化				
		An(Py)	An(Ho)	Ba		A	B	C	D	E
層位	YLM	17	1	1	19	0	7	0	10	2
合計		17	1	1	19	0	7	0	10	2

台石：An（Ho）１点含む

12号礫群
石材/層位別

		石材		合計	赤化				
		An(Py)	VAn		A	B	C	D	E
層位	YLM	24	1	25	4	7	4	8	2
	YLS	6		6		1	2		3
合計		30	1	31	4	8	6	8	5

台石：An（Py）１点
敲石：VAn１点含む

22号礫群
石材/層位別

		石材				合計	赤化				
		An(Py)	Ba	VBa	LTD		A	B	C	D	E
層位	YLM	5	12	32	8	57	6	8	18	24	1
合計		5	12	32	8	57	6	8	18	24	1

スクレイパー：GAn１点

23号礫群
石材/層位別

		石材					合計	赤化				
		An(Py)	An(Ho)	Ba	VAn	VBa		A	B	C	D	E
層位	YLM	7	1	4	1	1	14	0	4	2	8	0
合計		7	1	4	1	1	14	0	4	2	8	0

24号礫群
石材/層位別

		石材					合計	赤化				
		An(Py)	An(Ho)	Ba	Ba(Scr)	VBa		A	B	C	D	E
層位	YLM	4	1	6	1	5	17	1	1	4	11	0
合計		4	1	6	1	5	17	1	1	4	11	0

26号礫群
石材/層位別

		石材					合計	赤化				
		An(Py)	Ba	VAn	VBa	Do		A	B	C	D	E
層位	YLM	6	1	1	17	5	30	0	7	2	14	7
合計		6	1	1	17	5	30	0	7	2	14	7

石刃：Hor２点

28号礫群
石材/層位別

		石材		合計	赤化				
		An(Py)	VBn		A	B	C	D	E
層位	YLM	2	18	20	0	0	4	11	5
合計		2	18	20	0	0	4	11	5

29号礫群
石材/層位別

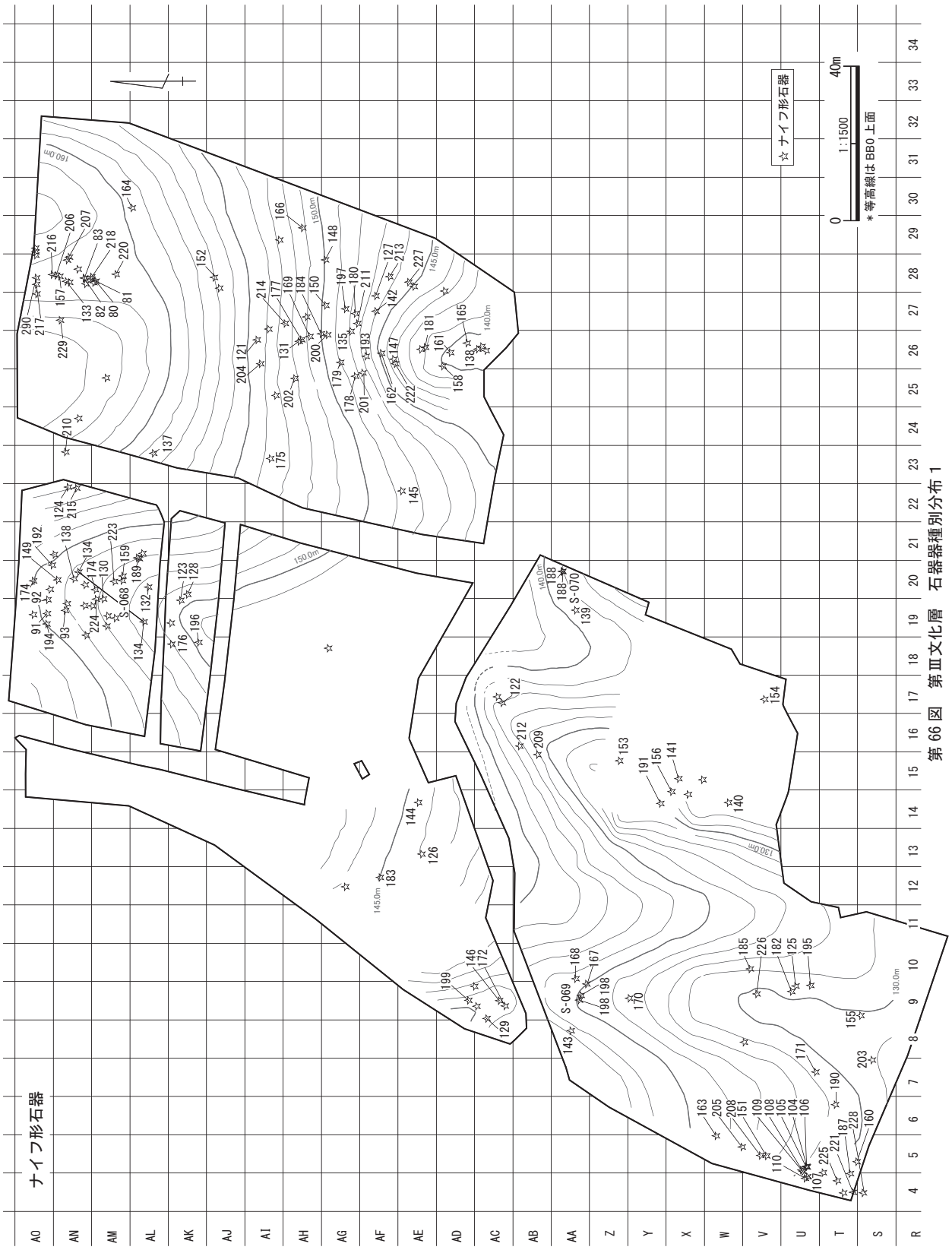
		石材		合計	赤化				
		Ba	VBn		A	B	C	D	E
層位	YLM	9	11	20	0	1	3	12	4
合計		9	11	20	0	1	3	12	4

30号礫群
石材/層位別

		石材		合計	赤化				
		An(Py)	VBa		A	B	C	D	E
層位	YLM	3	1	3	4	0	0	0	0
合計		3	1	3	4	0	0	0	0

石核：Hor１点

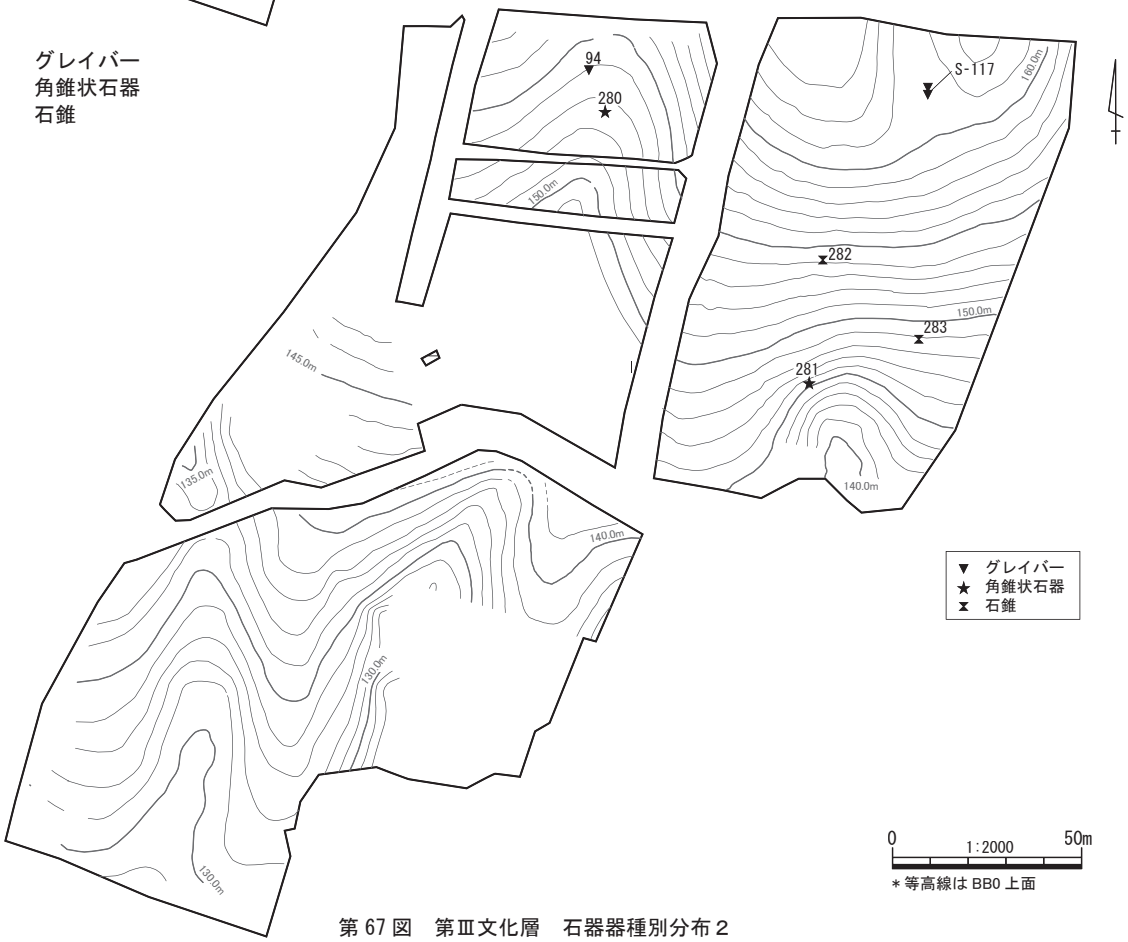
第 65 図　第Ⅲ文化層　石器器種別分布（全体）



第 66 図　第Ⅲ文化層　石器器種別分布 1

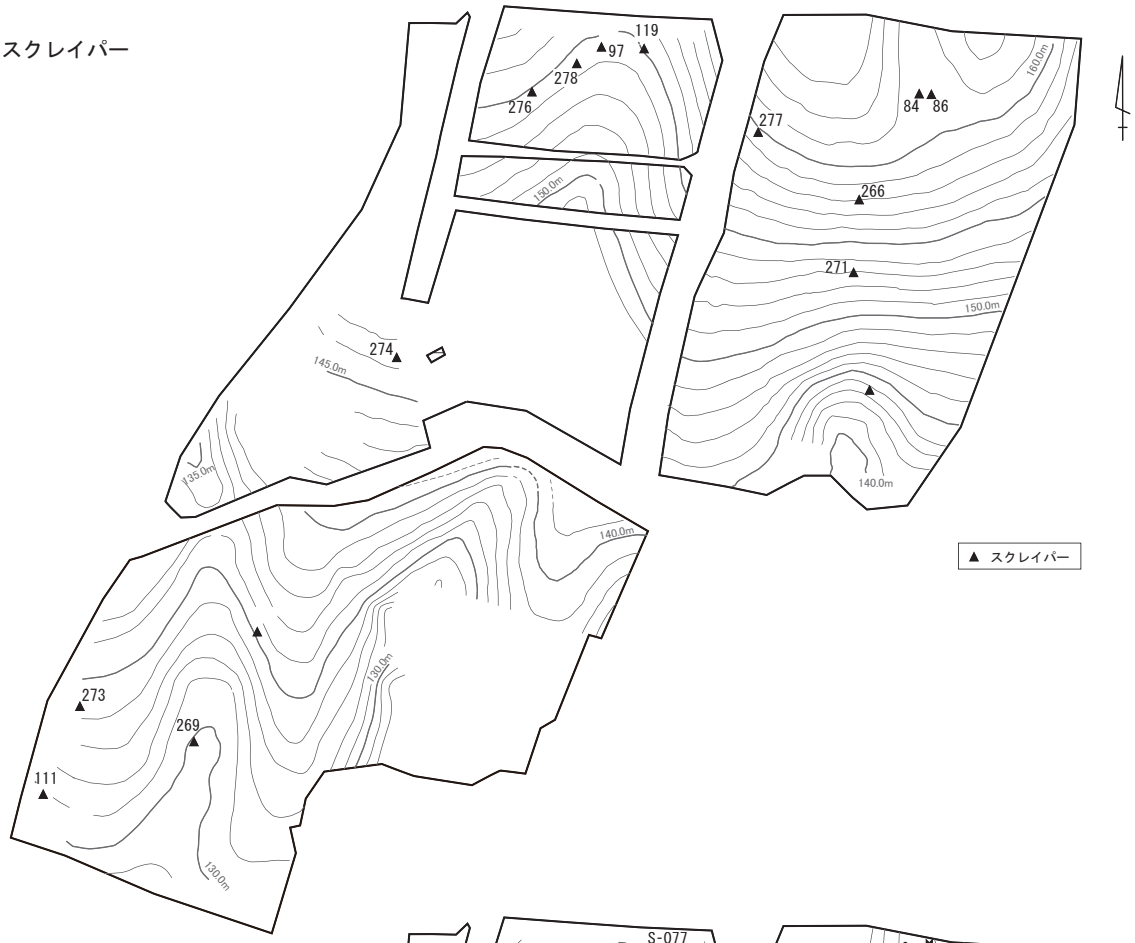
尖頭器

グレイバー
角錐状石器
石錐

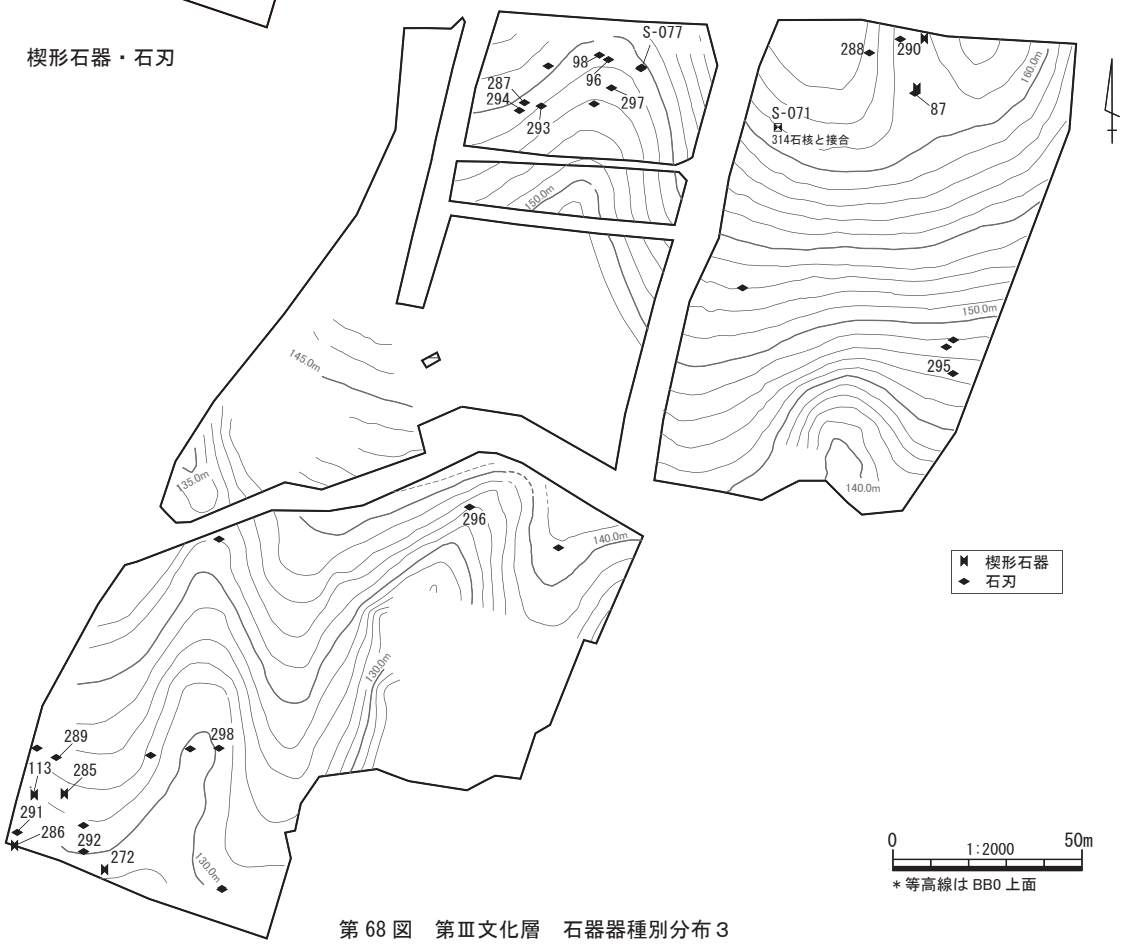


第 67 図　第Ⅲ文化層　石器器種別分布２

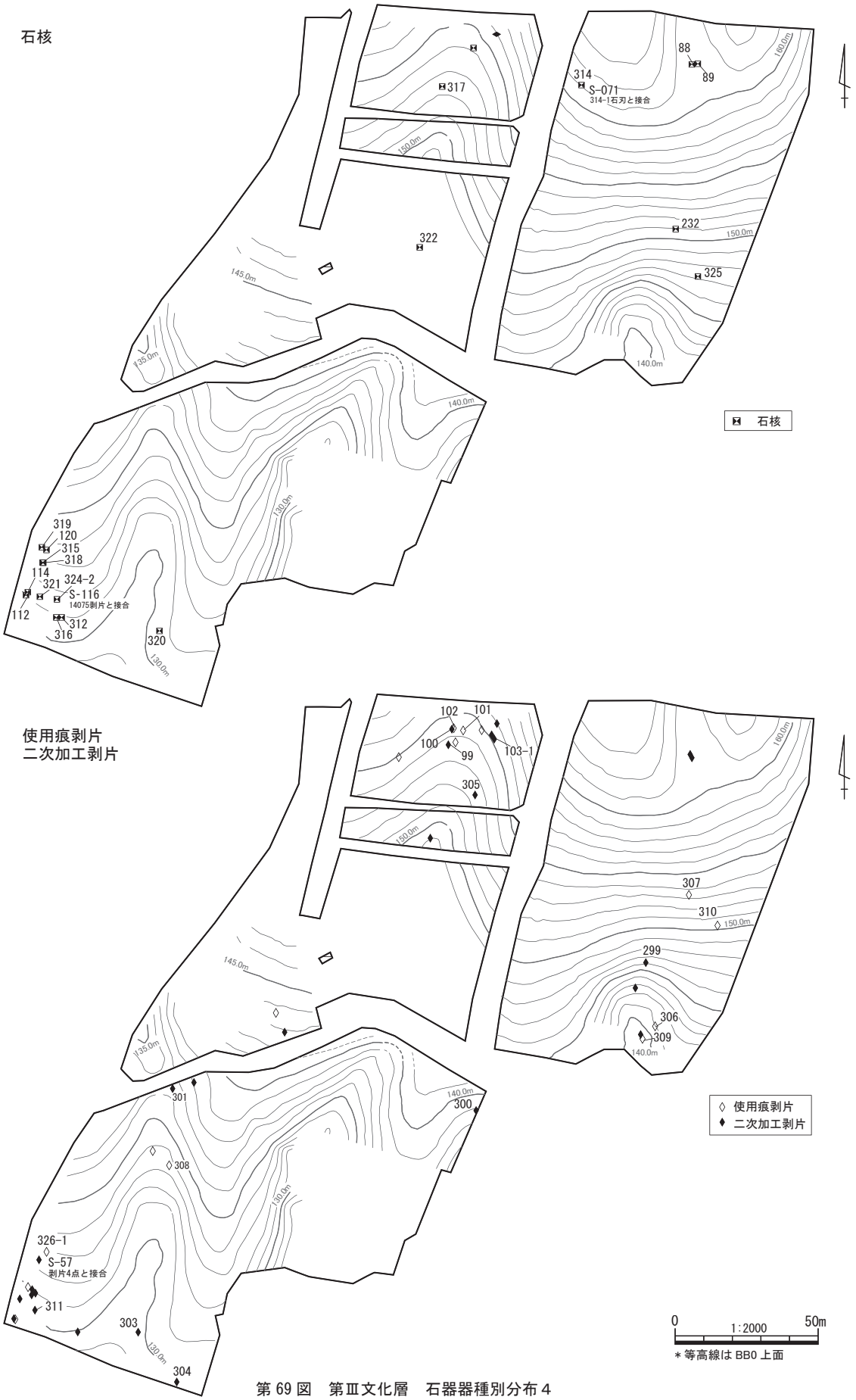
スクレイパー



楔形石器・石刃



第 68 図　第Ⅲ文化層　石器器種別分布３



第 69 図　第Ⅲ文化層　石器器種別分布４

剥片類

敲石
台石

第 70 図　第Ⅲ文化層　石器器種別分布５

第12表　第Ⅲ文化層　石器組成表

器種/石材別

		器種																合計
		ナイフ形石器	角錐状石器	尖頭器	グレイバー	スクレイパー	石錐	楔形石器	石刃	RF	UF	石核稜付剥片	両極剥片	剥片・砕片	石核	敲石	台石	
石材	Ob AGKT	12	1	1		1		1	1	1				4	1			23
	Ob HNHJ	39		3		6		3	5	11	5	2		386	6			466
	Ob HNKI													1				1
	Ob KZOB			1														1
	Ob SWHD	52		11		2		1	2	3	2	2	2	25	1			103
	Ob TSHG	1																1
	Ob TSTY	11		4		2	1	1	1	3				31	1			55
	Ob WDHY	2		1		1												4
	Ob WDTK	2												1				3
	Ob WDTM	1																1
	Ob WDTN	1									1							2
	Ob WDTY	22	1	7	1	1			1	4	1			19				57
	Ob 推定不可	7							1	2				90	2			102
	Ob 未分析													103				103
	GAn	1		3		1			1					11				17
	FAn					1								4	1			6
	An(Py)										1			1			8	10
	An(Ho)																1	1
	VAn															1	1	2
	GRS	2																2
	Rhy	3		1					1					4				9
	Ag	2				2			1	1	2			11				19
	Cha	1			2	1								1	1			6
	RC	1																1
	YJa	1																1
	RJa	1																1
	Ch(Re)										1							1
	Ch(DG)								1									1
	Ch(Gy)													1				1
	HFT					1												1
	Sh													1				1
	SSh(DG)										1							1
	SSh(Gy)	1		1			1											3
	SSh(Bl)													1				1
	FSS													2				2
	MSS													2				2
	Hor	10		4		1			15	1		1		71	7			110
	HS									1	1			2				4
合計		173	2	37	3	20	2	6	30	27	15	5	2	772	20	1	10	1125

器種/層位別

		器種																合計
		ナイフ形石器	角錐状石器	尖頭器	グレイバー	スクレイパー	石錐	楔形石器	石刃	RF	UF	石核稜付剥片	両極剥片	剥片・砕片	石核	敲石	台石	
層位	BB0	1												6				7
	YLL	27	1	1		3			9	5	4	1		84	2		1	138
	YLM	23	1	10	1	4			7	8	5	2	1	117	3	1	3	186
	YLU	22		5	1	4		2	4	5	2		1	144	5		2	197
	YL	32		7		4	2	2	7	6	3			165	8		3	239
	YLS	4		1				1	1	2	1			223	1		1	235
	ZN	10		2										3				15
	FB	37		5	1							1		1				45
	KU	3																3
	AN	1																1
	KGP	1																1
	黒色土	4		2					1									7
	表採	6		2		5		1	1	1				28	1			45
	撹乱	2		2								1		1				6
合計		173	2	37	3	20	2	6	30	27	15	5	2	772	20	1	10	1125

石材/層位別

		石材																																				合計
		Ob																																				
		AGKT	HNHJ	HNKI	KZOB	SWHD	TSHG	TSTY	WDHY	WDTK	WDTM	WDTN	WDTY	推定不可	未分析	GAn	FAn	An(Py)	An(Ho)	VAn	Rhy	Ag	Cha	RC	YJa	GRS	RJa	Ch(Re)	Ch(DG)	Ch(Gy)	HFT	Sh	SSh(DG)	SSh(Gy)	SSh(Bl)	FSS	MSS	Hor	HS	
層位	BB0					2																																5		7
	YLL	5	54			11		8	1				8	13	1	1		1			1	2	1		1	2		1				1	1	1		1		21	2	138
	YLM	4	87		1	17		7	1	1			8	11	7	7	1	2	1	1		2																28		186
	YLU	2	75			12		6					13	29	28	3	2	2		1		5	2				1				1							15		197
	YL	7	109	1		18		3	1			1	9	22	6	3	2	4			7								1					2	1	1	2	37	2	239
	YLS		105			13		21					3	22	60	1	1	1				6	1							1										235
	ZN		4			4		1			1		2	2										1															15
	FB	3	10			15		3		2		1	7			1							1														2		45
	KU					2		1																																3
	AN					1																																		1
	KGP					1																																		1
	黒色土		1			4		1					1																											7
	表採	2	20			1		4					6	3	1	1					1	4	1														1		45
	撹乱		1			2	1		1																												1		6
合計		23	466	1	1	103	1	55	4	3	1	2	57	102	103	17	6	10	1	2	9	19	6	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	3	1	2	2	110	4	1125

Ａ類　二側縁加工のナイフ形石器

Ａ−Ⅰ類：素材剥片の打点部側を先端にして、基部に平坦剥離を施しているもの。

121〜124は小型の縦長剥片を素材としている。121・123は左側縁及び右側縁下半、122・124は右側縁及び左側縁下半に二次加工を施し整形している。いずれも黒曜石製で、121は和田鷹山群、122・123は諏訪星ヶ台群、124は箱根畑宿群との推定結果が出ている。

125・126・128はやや小型の縦長剥片を素材としている。125は右側縁及び左側縁下半、126・128は左側縁及び右側縁下半に二次加工を施し整形している。125は基部が尖基状を呈する。いずれも黒曜石製で、125は天城柏峠群、126・128は和田鷹山群との推定結果が出ている。

127・129は大型でやや幅広の縦長剥片を素材とし、基部が円基ないし円基に近い形状を呈する。127は左側縁上半及び右側縁下半に二次加工を施し整形する。左側縁下半は自然面を残し二次加工が不要であったと推測される。黒曜石（和田鷹山群）製である。129は右側縁及び左側縁下端に二次加工を施し整形する。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

130〜135は大型の縦長剥片を素材としている。特に130・132・133・134は刃部が長い秀麗な形態を呈する。130・131・134・135は左側縁及び右側縁下半に二次加工を施し整形する。130は上半部を欠損する。130・131は黒曜石（蓼科冷山群）製、132〜134は黒曜石（諏訪星ヶ台群）製、135は黄玉石製である。

Ａ−Ⅱ類：素材剥片の打点部側を先端にして、基部に平坦剥離を施していないもの。

136〜143は小型の縦長剥片を素材とする。136・139は基部を円基または円基状を呈するもので、136は左側縁から基部、右側縁下半にかけて二次加工を施し整形する。139は右側縁及び左側縁下半に二次加工を施し整形する。136は黒曜石（和田鷹山群）製、139は黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

137は自然面付近で得られたやや不定形で厚みがある縦長剥片を素材とする。左側縁及び右側縁下半に二次加工を施す。黒曜石（和田鷹山群）製である。

138・141・142は左側縁及び右側縁下半に二次加工を施し整形する。138は先端部を欠損する。138は黒曜石（和田鷹山群）製、141・142は黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

140・143は右側縁及び左側縁下半に二次加工を施す。140は上半部を欠損するが、両側面の二次加工の状況から左側縁上半に刃部が形成されていたと推測され、基部は尖基状を呈する。140は黒曜石（諏訪星ヶ台群）製、143は黒曜石（箱根畑宿群）製である。

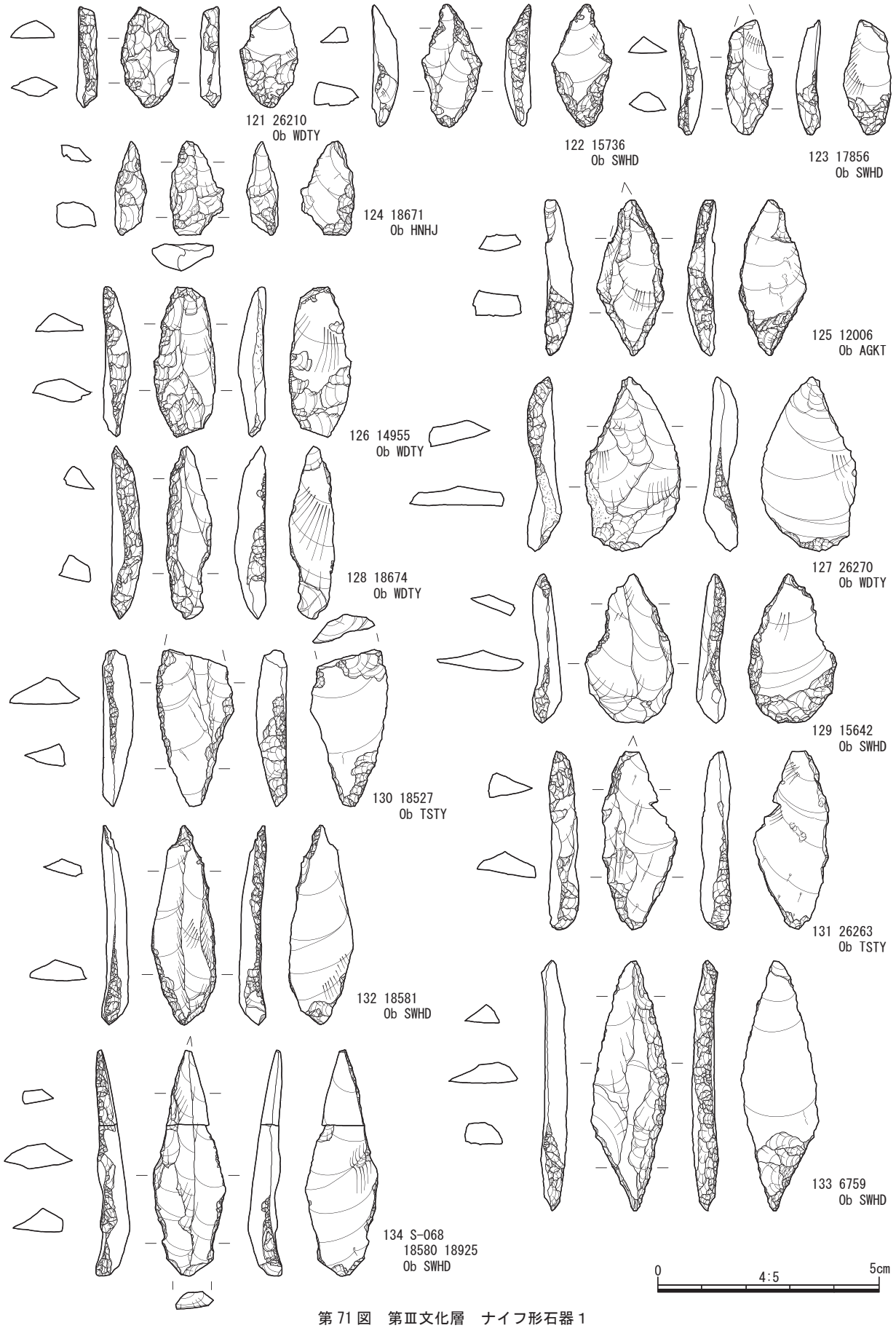
144〜146はやや大型の縦長剥片を素材とする。144は左側縁及び右側縁下半に二次加工を施し整形し、基部は尖る。先端部を欠損する。145は左側縁上半に明確な二次加工が認められ、その他の周縁部には微細な剥離が連続するが便宜的にここに含めた。146は厚みがある剥片を用い、左側縁及び右側縁下端に二次加工を施す。144・145は黒曜石（和田鷹山群）製、146はホルンフェルス製である。

Ａ−Ⅲ類：素材剥片の打点部側を先端にして、基部が折損等により形状不明なもの。

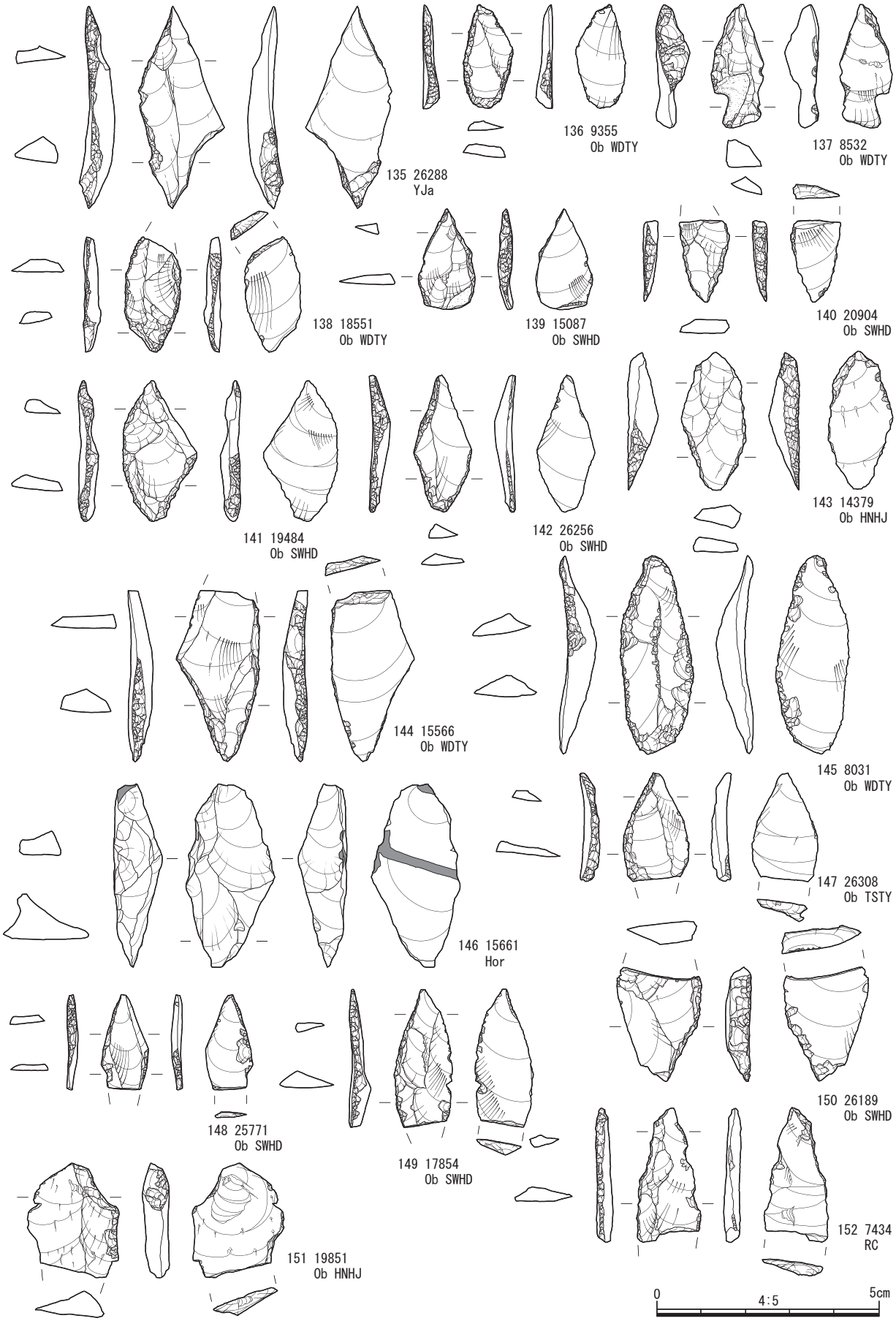
147〜150は小型の縦長剥片を素材とする。147〜149は左側縁及び右側縁下半に二次加工を施し整形する。150は右側縁及び左側縁下半に二次加工を施し整形する。先端部を折損する。147は黒曜石（蓼科冷山群）製、148〜150は黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

151〜153は中型の縦長剥片を素材とする。151は打点部を残し右側縁に二次加工を施すもので、下半部を欠損するが、ナイフ形石器と判断した。152は左側縁及び右側縁下半に二次加工を施し細身に整形する。153は右側縁及び左側縁下半に二次加工を施す。151は黒曜石（箱根畑宿群）製、152は水晶製、153は黒曜石（天城柏峠群）製である。

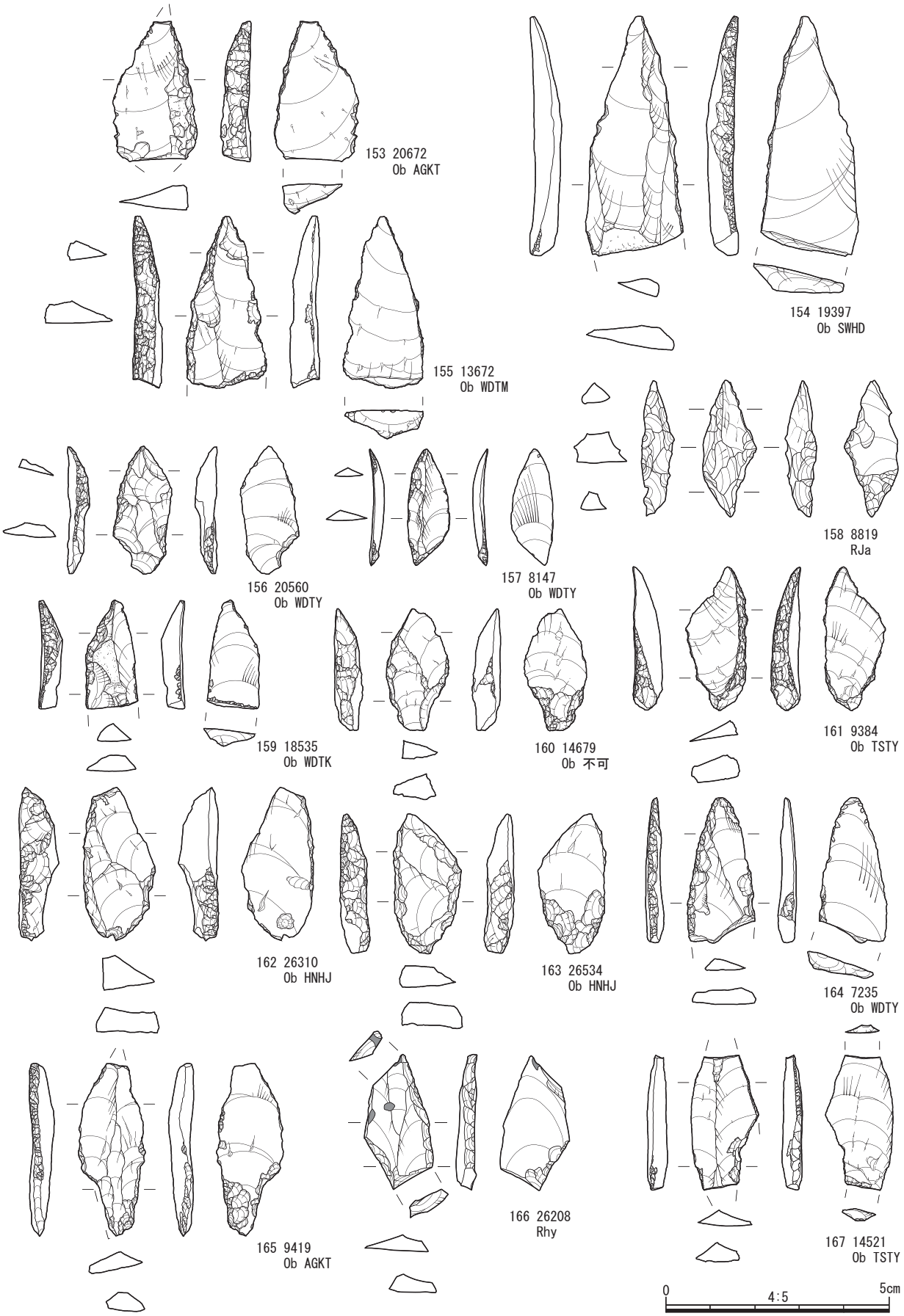
154・155は大型の縦長剥片を素材とする。154は右側縁及び左側縁下半に二次加工を施し整形する。155は左側縁に二次加工を施し整形する。154は黒曜石（諏訪星ヶ台群）製、155は黒曜石（和田高松沢群）製である。



第 71 図　第Ⅲ文化層　ナイフ形石器１



第 72 図　第Ⅲ文化層　ナイフ形石器２



第 73 図　第Ⅲ文化層　ナイフ形石器３

Ａ-Ⅳ類：素材剥片の打点部側を基部にして、打点部を除去しているもの。

156～160は小型の縦長剥片を素材とする。いずれも左側縁及び右側縁下半に二次加工を施し整形する。157は同一方向から連続剥離して得られた比較的精緻な剥片を素材としている。159は基部を折損する。156・157は黒曜石（和田鷹山群）製、158は赤玉石製、159は黒曜石（和田土屋橋北群）製、160は黒曜石（分析不可）製である。

161～167は中型の縦長剥片を素材とする。161・163は切出しに近い形状を作出する。161は180度の打面転移を行い得られた剥片を用い、右側縁及び左側縁下半に二次加工を施す。163は90度の打面転移を行い得られた剥片を用い、左側縁及び右側縁下半に二次加工を施す。161は黒曜石（蓼科冷山群）製、163は黒曜石（箱根畑宿群）製である。162・164は同一方向から連続剥離して得られた剥片を素材とし、これを斜位に用い左側縁及び右側縁下半に二次加工を施し整形する。162は黒曜石（箱根畑宿群）製、164は黒曜石（和田鷹山群）製である。165～167は同一方向から連続剥離して得られた剥片を素材とし、これを縦位に用いる。165は左側縁及び右側縁下半に、166・167は右側縁及び左側縁下半に二次加工を施し整形する。165は黒曜石（天城柏峠群）製、166は流紋岩製、167は黒曜石（蓼科冷山群）製である。

168～171はやや大型の縦長剥片を素材とする。同一方向から連続剥離して得られた剥片を素材とし、これを縦位に用いる。168は左側縁及び右側縁下半に二次加工を施し整形する。先端部を欠損する。169は右側縁及び左側縁下端に二次加工を施し整形する。170は右側縁上半に二次加工が確認できる。下半部を折損する。171は右側縁及び左側縁下半に二次加工を施し整形する。168・169・171は黒曜石（諏訪星ヶ台群）製、170は瑪瑙製である。

172はやや大型の縦長剥片を素材とする。左側縁及び右側縁下端に二次加工を施し、木葉形に近い形状を作出する。刃部は微細な剥離が連続しやや抉り状を呈する。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

173は大型の縦長剥片を素材とし、右側縁上半に二次加工を施す。流紋岩製である。

Ａ-Ⅴ類：素材剥片の打点部側を基部にして、打点部を残しているもの。

174・175は小型の縦長剥片を素材とする。左側縁及び右側縁下半に二次加工を施す。174は細長の形状、175は木葉形で円基状を呈する。174は黒曜石（諏訪星ヶ台群）製、175は黒曜石（和田土屋橋西群）製である。

176・181は同一方向から連続剥離して得られた剥片を素材とし、これを斜位に用い、176は右側縁及び左側縁下半、181は左側縁及び右側縁下半に二次加工を施し、基部を尖り気味に収める。いずれも黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

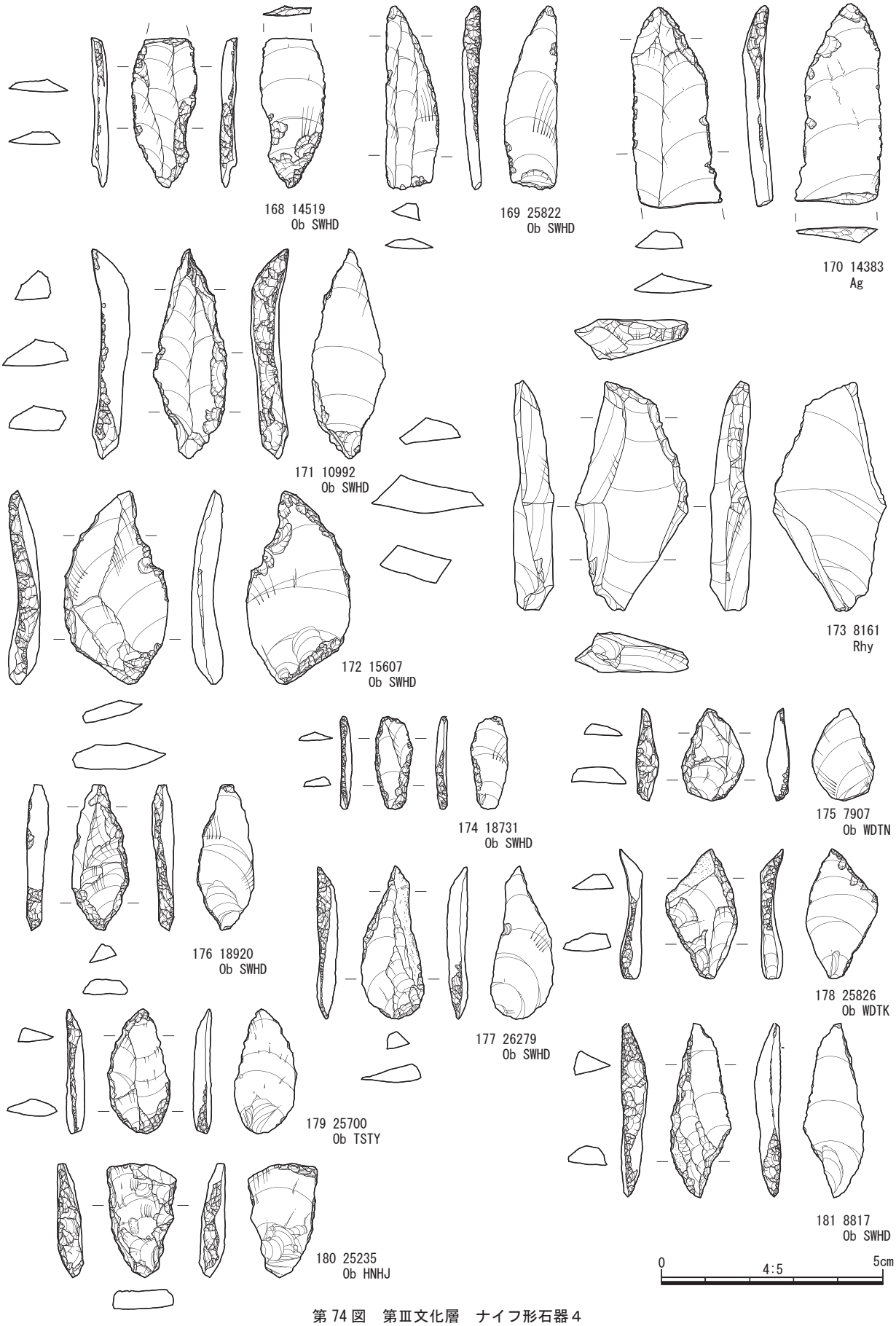
177・179・183・184はやや小型の縦長剥片を素材とする。177・179は左側縁及び右側縁下半に、183・184は右側縁及び左側縁下半を中心に二次加工を施し円基または円基状に整形する。177・183は黒曜石（諏訪星ヶ台群）製、179は黒曜石（蓼科冷山群）製、184は下呂石製である。

178・180・185・186は小型～中型の剥片を素材とする。178・186は右側縁及び左側縁下半、180・185は左側縁及び右側縁下半に二次加工を施し、基部は尖基状を呈し、切出し状に近い刃部を作出する。178は黒曜石（和田土屋橋北群）製、180・185・186は黒曜石（箱根畑宿群）製である。

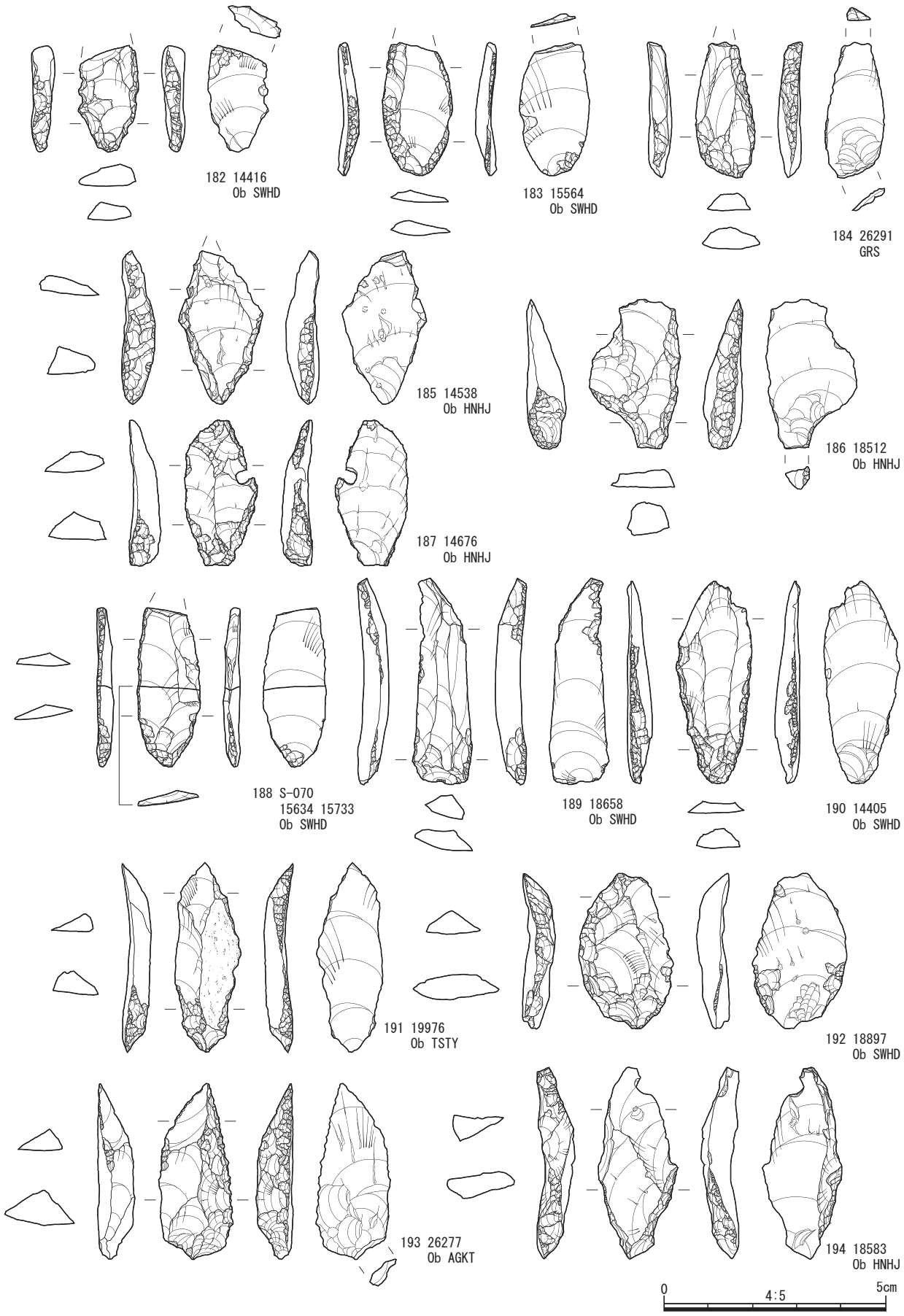
182は両側縁に二次加工を施しやや尖り気味の基部を作出する。先端部を折損する。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

187は右側縁及び左側縁下半に二次加工を施し整形する。黒曜石（箱根畑宿群）製である。

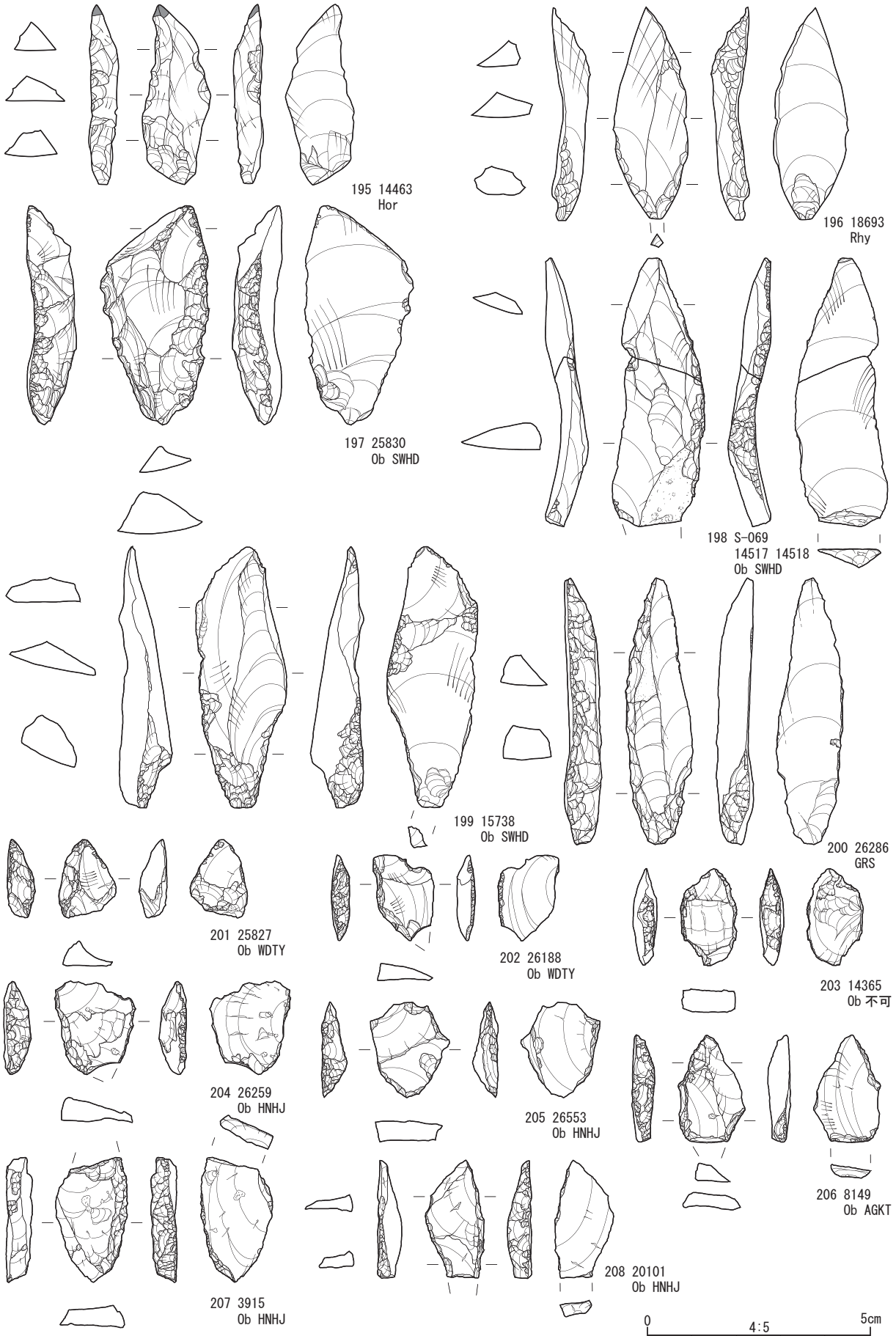
188～191は中型の縦長剥片を素材とし細身を呈する。188は左側縁及び右側縁下半に二次加工を施す。先端部を折損する。189・191は右側縁上下端と右側縁下端に二次加工を施す。189の刃部には使用痕とみられる刃こぼれが認められる。190は両側縁に二次加工を施す。188～190は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製、191は黒曜石（蓼科冷山群）製である。



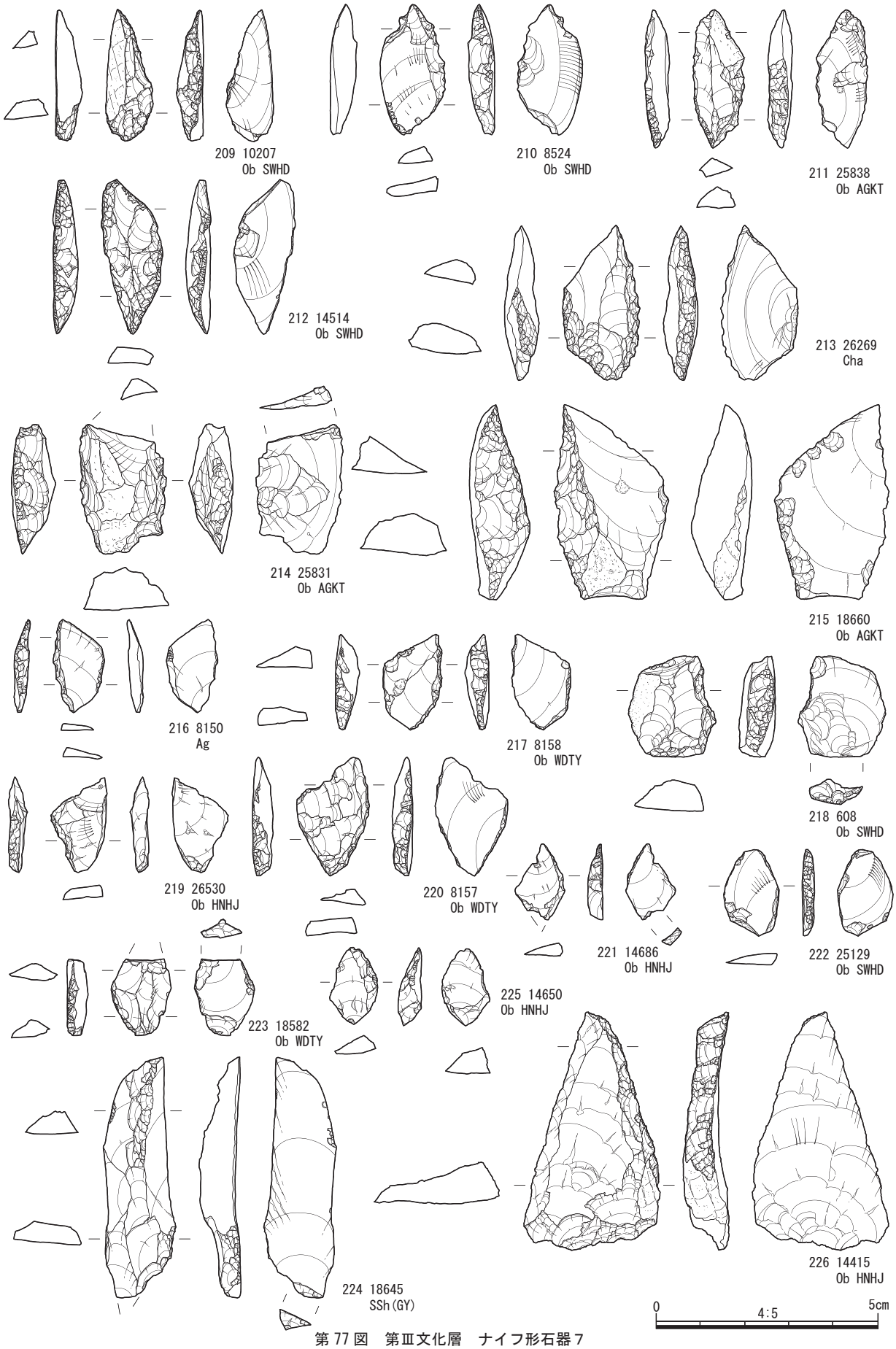
第 74 図　第Ⅲ文化層　ナイフ形石器４



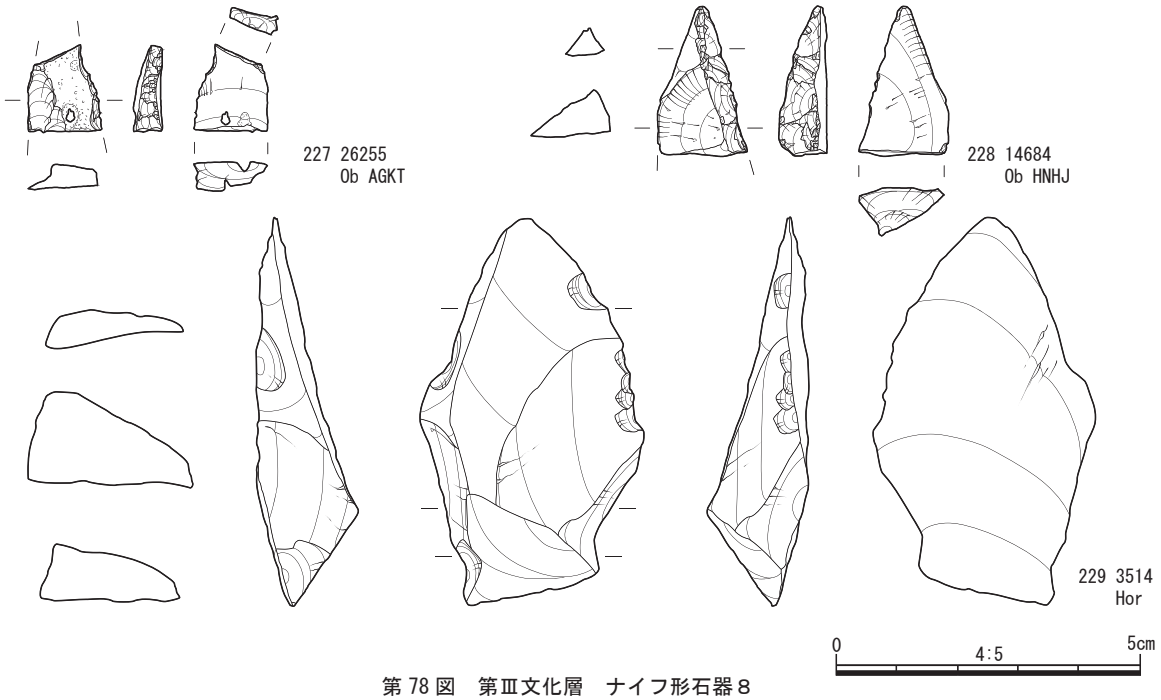
第 75 図　第Ⅲ文化層　ナイフ形石器５



第 76 図　第Ⅲ文化層　ナイフ形石器６



第 77 図　第Ⅲ文化層　ナイフ形石器７



第 78 図　第Ⅲ文化層　ナイフ形石器８

192は右側縁及び左側縁下半に二次加工を施し木葉形に整形する。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

193はやや厚手の縦長剥片を素材とし、右側縁二次加工を施し整形している。黒曜石（天城柏峠群）製である。194は中型の縦長剥片を斜位に用い左側縁及び右側縁に二次加工を施し整形している。黒曜石（箱根畑宿群）製である。195はやや厚手の縦長剥片を素材とし、左側縁に二次加工を施し整形している。ホルンフェルス製である。196は同一方向から連続剥離して得られた縦長剥片を素材とし、これを斜位に用い、右側縁及び左側縁下半に二次加工を施し整形する。流紋岩製である。

197は大型の縦長剥片を素材とし、両側縁に二次加工を施し整形する。刃部は切出し状に近い形状を呈する。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。198は大型の縦長剥片を素材とし、右側縁及び左側縁下端に二次加工を施し整形する。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。199は両側縁下半に二次加工を施し整形する。右側縁上半は素材剥片の剥離面形状を活かしたため、二次加工を行わなかったと推測される。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

200は同一方向から連続剥離して得られた細長の整った縦長剥片を素材とし、これを縦位に用い、左側縁及び右側縁下端に二次加工を施し整形する。下呂石製である。

Ａ-Ⅵ類：横長剥片を素材としているもの。

201～208・213・214は両側縁に二次加工を施し、切出状の刃部を形成する。201・202は黒曜石（和田鷹山群）製、203は黒曜石（分析不可）製、204・205・207・208は黒曜石（箱根畑宿群）製、206・214は黒曜石（天城柏峠群）製、213はチャート製である。

209は右側縁及び左側縁下端に二次加工を施しやや細身の形状を作出する。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。210は右側縁及び左側縁下端に二次加工を施し整形する。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。211・212は左側縁及び右側縁下半に二次加工を施し細身の形状を整形する。211は黒曜石（天城柏峠群）製、212は黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

Ｂ類　切出形石器

215はやや大型の縦長剥片を素材とし、左側縁に二次加工を施し右側縁上半に切出状の刃部を形成する。右側縁下半は素材剥片の自然面の形状を活かし二次加工は省略されている。黒曜石（天城柏峠群）製である。

216～223・225は小型の剥片を素材とし、両側縁に二次加工を加え切出状の刃部を形成する。一部は素材剥片の側縁形状を活かし二次加工を省略するものがある。216は瑪瑙製、217・220・223は黒曜石（和田鷹山群）製、218・222は黒曜石（諏訪星ヶ台群）製、219・221・225は黒曜石（箱根畑宿群）製である。

Ｃ類　基部加工のナイフ形石器

224は縦長剥片を素材とし、右側縁下端に二次加工を加える。珪質頁岩（灰色）製である。

Ｄ類　一側縁加工のナイフ形石器

226は大型の縦長剥片を素材とし、右側縁に二次加工を施し尖頭状を呈する形状を作出する。黒曜石（箱根畑宿群）製である。

Ｅ類　その他のナイフ形石器

227は上下端を折損し明確な分類が困難である。右側縁に二次加工が認められ、表面には自然面を多く残している。黒曜石（天城柏峠群）製である。

228は断面三角形を呈するやや厚手の剥片を素材とし、右側縁に二次加工を施す。黒曜石（箱根畑宿群）製である。

229は大型の縦長剥片を素材とし、両側縁の一部に二次加工を施す。器壁の風化により詳細な観察は困難である。ホルンフェルス製である。

尖頭器

230は半月形を呈する両面加工の大型の尖頭器である。両面をやや大きな剥離で成形した後、縁辺部を小剥離で微調整し整形している。縦断面にみられるように素材剥片の反りが残存している。先端部を折損する。黒曜石（天城柏峠群）製である。231は半月形を呈する両面加工の尖頭器である。両面ともに丁寧に二次加工を施し整形している。上下端を折損する。黒曜石（箱根畑宿群）製である。同石材が原石の形状や不純物の影響を受け不整形なものが多い傾向があるが本製品は非常に精緻に製作された印象を受ける。

232は半月形を呈する両面加工の尖頭器である。二次加工はやや粗く、裏面には素材剥片の剥離面を一部残している。下端部は節理面を起点として折損している。黒曜石（蓼科冷山群）製である。

233は半月形を呈する両面加工の尖頭器である。両面ともに丁寧な二次加工を施し整形されている。先端部を折損する。珪質頁岩（灰色）製である。

234は半月形を呈する両面加工の大型の尖頭器である。二次加工は縁辺部を中心にやや大きな剥離により整形している。先端部を折損する。ホルンフェルス製である。

235は器壁の風化により詳細な観察は困難であるが、両面加工の尖頭器と判断した。両面の縁辺部を中心にやや大きな剥離を行い整形している。ホルンフェルス製である。

236は半両面加工の尖頭器である。縦長剥片の打点側を基部におき、表面の周縁部及び、裏面の周縁部の一部に二次加工を施し整形している。表裏面ともに素材剥片の剥離面を残している。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。237は周縁加工の尖頭器である。縦長剥片を素材として打点部を先端部に用い表面の周縁部に二次加工を施し整形している。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

238は周縁加工の尖頭器である。小型の縦長剥片を素材として、打点部を基部に用い、表面の周縁部に二次加工を施し整形している。表面右下端部には自然面を残している。基部を折損する。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

239は半両面加工の尖頭器である。やや薄手の縦長剥片を素材として、打点部を基部に用い、表面周縁部及び裏面の周縁部の一部に二次加工を施し整形している。黒曜石（和田鷹山群）製である。240は周縁加工の尖頭器である。小型の縦長剥片を素材とし、これを斜位に用い、打点部を基部側に用い、表面周縁部に二次加工を施し整形している。黒曜石（和田鷹山群）製である。241は周縁加工の尖頭器で